

9月15日現在差替版
私立専大 8

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 専門職大学の設置

注1

認可

びわこリハビリテーション専門職大学

注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人藍野大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 専門職大学事務センター

職名・氏名 センター^{チョウダイリ}長代理^{イワサキコウジ} 岩崎康司

電話番号 0749-46-2311

（夜間） 090-3871-8047

e-mail soumuka@kanri-si.aino.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

リハビリテーション学部

<理学療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	33
※ 補足説明資料	37
添付資料	39
① 教育課程連携協議会 名簿	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人藍野大学

(2) 大学名

びわこリハビリテーション専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒527-0145
滋賀県東近江市北坂町967

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コヤマ ヒデオ) 小山 英夫 (令和3年4月)	—	
学長	(ヤマカワ マサノブ) 山川 正信 (令和2年4月)	—	
学部長	(ヤマダ ヒサオ) 山田 久夫 (令和2年4月)	—	
学科長等	(ヤマウチ マサオ) 山内 正雄 (令和2年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
リハビリテーション学部 理学療法学科 理学療法学士（専門職）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	年 4	人 80	年次 — 人	人 320	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80人 (—) [—]	— 人	80人 (—) [—]	— 人	— 人 () []	— 人	— 人 () []	— 人	— 人 () []	— 人	0.61倍	— 倍	
志願者数	57 (—) [—]	—	144 (—) [—]	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	55 (—) [—]	—	139 (—) [—]	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	53 (—) [—]	—	113 (—) [—]	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	44 (—) [—]	—	89 (—) [—]	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	0.55		1.11										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	44 [-] (-)	— [-] (-)	89 [-] (-)	— [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
2年次	/		43 [-] (-)	— [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
3年次			/		/		[] [] ()				
4年次	/						/		[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()
計			48 [-] (-)	132 [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()			[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	44 人	1 人	令和2年度	1 人	0 人	他の教育機関への転学(1名)
令和3年度	132 人	0 人	令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合 計		1 人		人	人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{44} = \boxed{2.27} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{132} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 理学療法学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	1				1					
	コミュニケーション論	1前	1								1	
	音楽	1後		1							1	
	キャリア発達論	2後	1								1	
	教育学	1前	1								1	
	倫理学入門	1前	1								1	
	哲学入門	1前		1				1				
	心理学	1後	1								1	
	経営学入門	2前		1							1	
	社会学	1前		1							1	
	日本の伝統文化	1前		1							1	
	日本の近代史	1前		1							1	
	体育	1後		1						1		
	生物学	1前	1				1					
	物理学Ⅰ	1前	1								1	
	物理学Ⅱ	1後		1							1	
	統計学	2後	1								1	
	数学	1前		1							1	
	英語Ⅰ	1前	1								1	
	英語Ⅱ	1後		1							1	
韓国語	2後		1							1		
中国語	2後		1							1		
小計(22科目)	-	-	10	12	0	1	1	1	1	0	13	
職業専門科目	解剖学Ⅰ	1前	2				1					
	解剖学Ⅱ	1後	2				1					
	解剖学Ⅲ	1後	1				1					
	生理学Ⅰ	1前	2								1	
	生理学Ⅱ	1後	2								1	
	運動学Ⅰ	1後	1				1					
	運動学Ⅱ	2前	1					1	2			
	運動学実習【※】	2後	1					1	1			
	運動生理学実習【※】	2後	1							1		
	人間発達学	1後	1								1	
	救急援助論	2後	1				1					
	内科学Ⅰ	2前	1				1					
	内科学Ⅱ	2後	1				1					
	神経内科学Ⅰ	2前	1								1	
	神経内科学Ⅱ	2後	1								1	
	整形外科Ⅰ	2前	1				1					
	整形外科Ⅱ	2後	1				1					
	精神医学	1後	1								1	
	小児科学	2前	1								1	
	老年医学	2前	1								1	
	薬理学概論	1後	1								1	
	予防医学	3前	1				1	1	1			
	画像診断学	2前	1								1	
	栄養学	2前	1					1				
	社会福祉学	2後	1								1	
	地域包括ケア論	3前	1						2			
リハビリテーション概論	1前	1					1					
基礎理学療法Ⅰ	1前	1						1				
基礎理学療法Ⅱ	1前	1						1				
基礎理学療法実習Ⅰ【※】	1後	1						1				
基礎理学療法研究法	3前	1						1				
基礎理学療法実習Ⅱ【※】	1後	1					1					
臨床技能論実習【※】	3前	1						1				
理学療法管理学	4後	1				1						

【令3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	1				1					
	コミュニケーション論	1前	1								1	
	音楽	1後		1							1	
	キャリア発達論	2後	1								1	
	教育学	1前	1								1	
	倫理学入門	1前	1								1	
	哲学入門	1前		1						1		
	心理学	1後	1								1	
	経営学入門	2前		1							1	
	社会学	1前		1							1	
	日本の伝統文化	1前		1							1	
	日本の近代史	1前		1							1	
	体育	1後		1						1		
	生物学	1前	1				1					
	物理学Ⅰ	1前	1								1	
	物理学Ⅱ	1後		1							1	
	統計学	2後	1								1	
	数学	1前		1							1	
	英語Ⅰ	1前	1								1	
	英語Ⅱ	1後		1							1	
韓国語	2後		1							1		
中国語	2後		1							1		
小計(22科目)	-	-	10	12	0	1	1	1	1	0	13	
職業専門科目	解剖学Ⅰ	1前	2				1					
	解剖学Ⅱ	1後	2				1					
	解剖学Ⅲ	1後	1				1					
	生理学Ⅰ	1前	2								1	
	生理学Ⅱ	1後	2								1	
	運動学Ⅰ	1後	1				1					
	運動学Ⅱ	2前	1					1	2			
	運動学実習【※】	2後	1					1	1			
	運動生理学実習【※】	2後	1							1		
	人間発達学	1後	1								1	
	救急援助論	2後	1				1					
	内科学Ⅰ	2前	1				1					
	内科学Ⅱ	2後	1				1					
	神経内科学Ⅰ	2前	1								1	
	神経内科学Ⅱ	2後	1								1	
	整形外科Ⅰ	2前	1				1					
	整形外科Ⅱ	2後	1				1					
	精神医学	1後	1								1	
	小児科学	2前	1								1	
	老年医学	2前	1								1	
	薬理学概論	1後	1								1	
	予防医学	3前	1				1	1	1			
	画像診断学	2前	1								1	
	栄養学	2前	1					1				
	社会福祉学	2後	1								1	
	地域包括ケア論	3前	1						2			
リハビリテーション概論	1前	1					1					
基礎理学療法Ⅰ	1前	1						1				
基礎理学療法Ⅱ	1前	1						1				
基礎理学療法実習Ⅰ【※】	1後	1						1				
基礎理学療法研究法	3前	1						1				
基礎理学療法実習Ⅱ【※】	1後	1					1					
臨床技能論実習【※】	3前	1						1				
理学療法管理学	4後	1				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	保健医療福祉関連制度論	4後	1								1	
	理学療法評価学	1後	1					1				
	理学療法評価学実習【※】	2前	2				2					
	理学療法評価学演習	3前	1			1		2				
	画像評価学	2後	1			2						
	運動療法学	2前	1				1					
	運動療法学実習【※】	2後	1					1				
	徒手理学療法学	3前	1			1						
	徒手理学療法学実習【※】	3後	1				1					
	物理療法学	2前	1									
	日常生活活動学	2前	1					1				
	義肢装具学Ⅰ	2前	1									
	義肢装具学Ⅱ	2後	1									
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ【※】	3前	1									
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ【※】	3後	1					1				
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ【※】	2後	1						1			
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ【※】	3前	1				2					1
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ【※】	3前	1			1						1
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ【※】	3前	1			1			1			
	小児期理学療法学演習	2後	1						1			1
	老年期理学療法学演習	2後	1									1
	スポーツ障害系理学療法学実習【※】	2後	1				1					
	神経筋骨格障害応用論実習【※】	4後		2		1	2	1				
	内部障害応用論実習【※】	4後		2		1		1				
	スポーツ障害応用論実習【※】	4後		2			2	2				
	地域理学療法学	2後	1						2			
	地域理学療法学実習【※】	3前	1						3			
	理学療法見学実習Ⅰ【臨】	1前	1			1	4	9				
理学療法見学実習Ⅱ【臨】	1後	1			1	4	9					
理学療法見学実習Ⅲ【臨】	2前	1			1	4	9					
理学療法評価実習【臨】	3前	4			1	5	10					
理学療法総合臨床実習Ⅰ【臨】	3後	6			1	5	10					
理学療法総合臨床実習Ⅱ【臨】	4前	6			1	5	10					
理学療法地域実習【臨】	4前	1			1	2	10					
小計(68科目)	—	83	6	0	7	6	10	1			14	
展開科目	マーケティング論	3後	1								1	
	施設起業運営論	3後	1								1	
	ボランティア論	1後	1								1	
	生涯スポーツ論	1前	1					1				
	労働衛生論	1後	1								1	
	子育て支援論	2前	1								1	
	災害支援論	2前	1								1	
	教育支援論	2前	1								2	
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1							1	
	地域共生論	3前	2								3	
	障がい者スポーツ論	3後	1			1						
	障がい者スポーツ論実習【※】	4前	1			1	1					
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1								3
	体力測定論	3後		1		1	2					
	健康増進実践演習	3後		1		1	2					
	健康増進実践実習【※】	3後		1		1	2					
	パフォーマンス向上論	3後		1		1						
	フィットネス論	3後		2		2		1				
	ランニングトレーニング論	3後		2		1						
	ゴルフトレーニング論	3後		2		2						1
	ピジョントレーニング論	3後		2								1
	遊びとレクリエーション	3後		1		1						
	生きがい創造	3後		2								1
	伝承遊び	3後		2								1
	シューフィッティング論	3後		1								1
	福祉工学地域活用論	3後		1								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	保健医療福祉関連制度論	4後	1									1
	理学療法評価学	1後	1						1			
	理学療法評価学実習【※】	2前	2					2				
	理学療法評価学演習	3前	1						1		2	
	画像評価学	2後	1					2				
	運動療法学	2前	1						1			
	運動療法学実習【※】	2後	1							1		
	徒手理学療法学	3前	1			1						
	徒手理学療法学実習【※】	3後	1					1				
	物理療法学	2前	1						1			
	日常生活活動学	2前	1							1		
	義肢装具学Ⅰ	2前	1							2		
	義肢装具学Ⅱ	2後	1							2		
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ【※】	3前	1						1			
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ【※】	3前	1							1		
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ【※】	2後	1							1		
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ【※】	3前	1				2					1
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ【※】	3前	1			1						1
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ【※】	3前	1			1			1			
	小児期理学療法学演習	2後	1							1		1
	老年期理学療法学演習	2後	1									1
	スポーツ障害系理学療法学実習【※】	2後	1				1					
	神経筋骨格障害応用論実習【※】	4後			2	1	2	1				
	内部障害応用論実習【※】	4後			2		1			1		
	スポーツ障害応用論実習【※】	4後			2			2	2			
	地域理学療法学	2後	1							2		
	地域理学療法学実習【※】	3前	1								3	
	理学療法見学実習Ⅰ【臨】	1前	1			1	4	9				
理学療法見学実習Ⅱ【臨】	1後	1			1	4	9					
理学療法見学実習Ⅲ【臨】	2前	1			1	4	9					
理学療法評価実習【臨】	3前	4			1	5	10					
理学療法総合臨床実習Ⅰ【臨】	3後	6			1	5	10					
理学療法総合臨床実習Ⅱ【臨】	4前	6			1	5	10					
理学療法地域実習【臨】	4前	1			1	2	10					
小計(68科目)	—	83	6	0	7	6	10	8	6	10	1	14
展開科目	マーケティング論	3後	1									1
	施設起業運営論	3後	1									1
	ボランティア論	1後	1									1
	生涯スポーツ論	1前	1							1		
	労働衛生論	1後	1									1
	子育て支援論	2前	1									1
	災害支援論	2前	1									1
	教育支援論	2前	1									2
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1								1
	地域共生論	3前	2									3
	障がい者スポーツ論	3後	1			1			1			
	障がい者スポーツ論実習【※】	4前	1			1	1					
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1								3
	体力測定論	3後		1		1	2					
	健康増進実践演習	3後		1		1	2					
	健康増進実践実習【※】	3後		1		1	2					
	パフォーマンス向上論	3後		1		1						
	フィットネス論	3後		2		2		1				
	ランニングトレーニング論	3後		2		1			1			
	ゴルフトレーニング論	3後		2		2			2			
	ピジョントレーニング論	3後		2								1
	遊びとレクリエーション	3後		1		1			1			
	生きがい創造	3後		2								1
	伝承遊び	3後		2								1
	シューフィッティング論	3後		1								1
	福祉工学地域活用論	3後		1								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
展開科目	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1							2
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2			1				2
	身体障がい者就労環境論	3後		2							1
	組織運営論	3後		2							2
	小計(30科目)	—	12	28	0	0	6	2	0	0	25
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1			2
	理学療法総合実習【※】	4後	1			2	5	9			
	リハビリテーション総合演習	3後	1			1	4	8			
	小計(3科目)	—	4	0	0	3	5	9	0	0	2
	合計(123科目)	—	109	46	0	8	6	10	1	0	52
卒業要件及び履修方法											
<p>【卒業要件】</p> <p>次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。</p> <p>1.基礎科目20単位以上</p> <p>(1)必修科目10単位</p> <p>(2)選択科目10単位以上</p> <p>・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を修得すること。</p> <p>2.職業専門科目87単位以上</p> <p>(1)必修科目83単位</p> <p>(2)選択科目4単位</p> <p>3.展開科目20単位以上</p> <p>(1)必修科目12単位</p> <p>(2)選択科目8単位以上</p> <p>4.総合科目4単位</p> <p>(1)必修科目4単位</p>											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
展開科目	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1							2
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2				1			2
	身体障がい者就労環境論	3後		2							1
	組織運営論	3後		2							2
	小計(30科目)	—	12	28	0	0	6	2	0	0	25
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1			2
	理学療法総合実習【※】	4後	1				3	5	9		
	リハビリテーション総合演習	3後	1			1	4	8			
	小計(3科目)	—	4	0	0	4	5	9	0	0	2
	合計(123科目)	—	109	46	0	9	6	10	1	0	52
卒業要件及び履修方法											
<p>【卒業要件】</p> <p>次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。</p> <p>1.基礎科目20単位以上</p> <p>(1)必修科目10単位</p> <p>(2)選択科目10単位以上</p> <p>・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を修得すること。</p> <p>2.職業専門科目87単位以上</p> <p>(1)必修科目83単位</p> <p>(2)選択科目4単位</p> <p>3.展開科目20単位以上</p> <p>(1)必修科目12単位</p> <p>(2)選択科目8単位以上</p> <p>4.総合科目4単位</p> <p>(1)必修科目4単位</p>											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	1				1					
	コミュニケーション論	1前	1									1
	音楽	1後		1								1
	キャリア発達論	2後	1									1
	教育学	1前	1									1
	倫理学入門	1前	1									1
	哲学入門	1前		1				1				
	心理学	1後	1									1
	経営学入門	2前		1								1
	社会学	1前		1								1
	日本の伝統文化	1前		1								1
	日本の近代史	1前		1								1
	体育	1後		1						1		
	生物学	1前	1			1						
	物理学Ⅰ	1前	1									1
	物理学Ⅱ	1後		1								1
	統計学	2後	1									1
	数学	1前		1								1
	英語Ⅰ	1前	1									1
	英語Ⅱ	1後		1								1
	韓国語	2後		1								1
	中国語	2後		1								1
小計(22科目)	-	-	10	12	0	1	1	1	1	0	13	
職業専門科目	解剖学Ⅰ	1前	2			1						
	解剖学Ⅱ	1後	2			1						
	解剖学Ⅲ	1後	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	2									1
	生理学Ⅱ	1後	2									1
	運動学Ⅰ	1後	1			1						
	運動学Ⅱ	2前	1				1	2				
	運動学実習【※】	2後	1				1	1				
	運動生理学実習【※】	2後	1							1		
	人間発達学	1後	1									1
	救急援助論	2後	1			1						
	内科学Ⅰ	2前	1			1						
	内科学Ⅱ	2後	1			1						
	神経内科学Ⅰ	2前	1									1
	神経内科学Ⅱ	2後	1									1
	整形外科Ⅰ	2前	1			1						
	整形外科Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学	1後	1									1
	小児科学	2前	1									1
	老年医学	2前	1									1
	薬理学概論	1後	1									1
	予防医学	3前	1			1	1	1				
	画像診断学	2前	1									1
	栄養学	2前	1				1					
	社会福祉学	2後	1									1
	地域包括ケア論	3前	1						2			
	リハビリテーション概論	1前	1				1					
基礎理学療法Ⅰ	1前	1						1				
基礎理学療法Ⅱ	1前	1						1				
基礎理学療法実習Ⅰ【※】	1後	1						1				
基礎理学療法研究法	3前	1						1				

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業 専門 科目	基礎理学療法実習Ⅱ	1後	1				1					
	臨床技能論実習	3前	1					1				
	理学療法管理学	4後	1			1						
	保健医療福祉関連制度論	4後	1									1
	理学療法評価学	1後	1					1				
	理学療法評価学実習	2前	2				2					
	理学療法評価学演習	3前	1			1		2				
	画像評価学	2後	1			2						
	運動療法学	2前	1				1					
	運動療法学実習	2後	1					1				
	徒手理学療法学	3前	1			1						
	徒手理学療法学実習	3後	1				1					
	物理療法学	2前	1				1					
	日常生活活動学	2前	1					1				
	義肢装具学Ⅰ	2前	1				2					
	義肢装具学Ⅱ	2後	1				2					
	神経障害系理学療法実習Ⅰ	3前				1						
	神経障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1					1				
	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	2後	1					1				
	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1				2					1
	内部障害系理学療法実習Ⅰ	3前	1			1						1
	内部障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1			1		1				
	小児期理学療法学演習	2後	1					1				1
	老年期理学療法学演習	2後	1									1
	スポーツ障害系理学療法学実習	2後	1				1					
	神経筋骨格障害応用論実習	4後		2			2	2	1			
	内部障害応用論実習	4後		2			1		1			
	スポーツ障害応用論実習	4後		2				2	2			
	地域理学療法学	2後	1						2			
	地域理学療法学実習	3前	1						3			
	理学療法見学実習Ⅰ	1前	1			1	4	9				
	理学療法見学実習Ⅱ	1後	1			1	4	9				
	理学療法見学実習Ⅲ	2前	1			1	4	9				
理学療法評価実習	3前	4			1	5	10					
理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6			1	5	10					
理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6			1	5	10					
理学療法地域実習	4前	1			1	2	10					
小計(68科目)		-	83	6	0	8	6	10	1		14	
展 開 科 目	マーケティング論	3後	1								1	
	施設起業運営論	3後	1								1	
	ボランティア論	1後	1								1	
	生涯スポーツ論	1前	1						1			
	労働衛生論	1後	1								1	
	子育て支援論	2前	1								1	
	災害支援論	2前	1								1	
	教育支援論	2前	1								2	
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1							1	
	地域共生論	3前	2								3	
	障がい者スポーツ論	3後	1				1					
	障がい者スポーツ論実習【※】	4前	1				1	1				
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1							3	
	体力測定論	3後		1			1	2				
	健康増進実践演習	3後		1			1	2				
	健康増進実践実習【※】	3後		1			1	2				
パフォーマンス向上論	3後		1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開科目	フィットネス論	3後		2			2			1		
	ランニングトレーニング論	3後		2			1					
	ゴルフトレーニング論	3後		2			2					1
	ビジョントレーニング論	3後		2								1
	遊びとレクリエーション	3後		1			1					
	生きがい創造	3後		2								1
	伝承遊び	3後		2								1
	シューフィッティング論	3後		1								1
	福祉工学地域活用論	3後		1								1
	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1								2
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2			1					2
	身体障がい者就労環境論	3後		2								1
	組織運営論	3後		2								2
	小計(30科目)		-	12	28	0	0	6	2	0	0	25
総合科目	協働連携論総合実習	4後		2			1	1				2
	理学療法総合実習	4後		1		3	5	9				
	リハビリテーション総合演習	3後		1		1	4	8				
	小計(3科目)		-	4	0	0	4	5	9	0	0	2
合計(123科目)		-	109	46	0	9	6	10	1	0	52	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。

1.基礎科目20単位以上

(1)必修科目10単位

(2)選択科目10単位以上

・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と
語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を
修得すること。

2.職業専門科目87単位以上

(1)必修科目83単位

(2)選択科目4単位

3.展開科目20単位以上

(1)必修科目12単位

(2)選択科目8単位以上

4.総合科目4単位

(1)必修科目4単位

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

設置認可時に未確定だった教員が、令和元年12月のAC教員審査により決定したことにより、以下の6科目の専任教員配置が変更。
 「物理療法学」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
 「義肢装具学Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
 「義肢装具学Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
 「神経障害系理学療法学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
 「神経筋骨格障害応用論実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
 「理学療法総合実習」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
 新規に教授1名を採用したため、合計数の「教授8」から「教授9」に変更（令和元年12月AC教員審査済み）。

【令和3年度】

特になし

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
89 科目	34 科目	0 科目	123 科目	89 科目 [0]	34 科目 [0]	0 科目 [0]	123 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{123} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他は駐車場。 運動場用地は近隣の総合スポーツ施設（おくの運動公園）を賃借（スクールバスで10分。4.4km） 校地等の共用については、共用していた滋賀医療技術専門学校が閉校（R3.3）したことに伴いすべて専用に変更。					
	校舎敷地	13,632.29㎡	0㎡	13,632.29㎡	0.00㎡		13,632.29㎡				
	運動場用地	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡		0.00㎡				
	小 計	13,632.29㎡	0㎡	13,632.29㎡	0.00㎡		13,632.29㎡				
	そ の 他	4,007.00㎡	0㎡	4,007.00㎡	0.00㎡		4,007.00㎡				
	合 計	17,639.29㎡	0㎡	17,639.29㎡	0.00㎡		17,639.29㎡				
(2) 校 舎	専 用	6,102.41㎡	共 用	0.00㎡	共用する他の 学校等の専用	0.00㎡	計	6,102.41㎡			
		(3,224.59㎡)		(2,877.82㎡)	(0.00㎡)	(0.00㎡)		(6,102.41㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	10室	演 習 室	1室	実験実習室	12室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	0室	
							(補助職員 0人)		(補助職員 0人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数						
	リハビリテーション学部 理学療法学科				30		室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点				
	リハビリテーション学部	14,336 [719] 12,884 [669] (12,894 [716]) (11,184 [649])	48 [7] (44 [3])	3 [0] (3 [0])	236 206 (236) (206)	2,394 2,195 (2,369) (2,098)	46 (46) (28)	購入予定の図書が一部絶版となり入手できなかったため8冊減。機械・器具については開設前年度に購入したものを加算した(2)			
	計	14,336 [719] 12,884 [669] (12,894 [716]) (11,184 [649])	48 [7] (44 [3])	3 [0] (3 [0])	236 206 (236) (206)	2,394 2,195 (2,369) (2,098)	46 (46) (28)	図書、視聴覚資料及び機器の寄贈・経常経費での購入があったため、当初計画より増加された(3)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	311.66㎡		82		25,000						
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
	0.00㎡		該 当 な し				体育館は近隣のおくの運動公園を賃借				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	253千円	253千円	図書購入費	- 千円	1,000千円	1,000千円			
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	- 千円	1,500千円	1,500千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,600千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金等									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	びわこリハビリテーション専門職大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
リハビリテーション学部	4	120	3年次人	240	理学療法士(専門職)	1.05	0.76		令和2	滋賀県東近江市北坂町967
理学療法学科	4	80	-	160	理学療法士(専門職)	1.11	0.83	-	令和2	同上
作業療法学科	4	40	-	80	作業療法士(専門職)	0.92	0.63	-	令和2	同上
大学全体	-	120	-	240	-	-	-	-	-	-
大学の名称	藍野大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
医療保健学部	4	295	3年次人	1,090	学士(看護学)	1.08	1.14	令和2	平成16年	-
看護学科	4	115	2	410	学士(看護学)	1.04	1.11	令和2	平成16年	大阪府茨木市東太田4-5-4
理学療法学科	4	100	-	360	学士(理学療法)	1.14	1.20	令和2	平成16年	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.07	0.92		平成16年	同上
臨床工学科	4	40	-	160	学士(臨床工学)	1.09	1.35		平成22年	同上
大学全体	-	295	2	-	-	-	-	-	-	-
大学院看護学研究科	2	6	-	12	修士(看護学)	0.91	0.66	-	平成27	大阪府茨木市東太田4-5-4
大学の名称	藍野大学短期大学部					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍			
第一看護学科	2	100	-	200	短期大学士(看護学)	0.92	1.40	-	昭和60年	大阪府茨木市太田3-9-25
第二看護学科	3	80	-	240	短期大学士(看護学)	1.19	1.25	-	平成19年	大阪府富田林市青葉丘11-1
大学全体	-	180	-	440	-	-	-	-	-	-

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください

- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション学部 理学療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授(学長)	山川 正信 (70) <令和2年4月> 医学博士	予防医学	山川 正信 (70) <令和2年4月> 医学博士	予防医学	山川 正信 (71) <令和2年4月> 医学博士			
専任	教授(学部長)	山田 久夫 (68) <令和2年4月> 医学博士	解剖学 I 解剖学 II 解剖学 III	山田 久夫 (68) <令和2年4月> 医学博士	解剖学 I 解剖学 II 解剖学 III	山田 久夫 (69) <令和2年4月> 医学博士			
専任	教授	金沢 伸彦 (65) <令和2年4月> 医学博士	整形外科 I 整形外科 II 画像評価学	金沢 伸彦 (65) <令和2年4月> 医学博士	整形外科 I 整形外科 II 画像評価学	金沢 伸彦 (66) <令和2年4月> 医学博士			
専任	教授	篠田 恵一 (68) <令和3年4月> 医学博士	内科学 I 内科学 II 救急援助論 画像評価学	篠田 恵一 (67) <令和3年4月> 医学博士	内科学 I 内科学 II 救急援助論 画像評価学	篠田 恵一 (68) <令和3年4月> 医学博士			
専任	教授	中野 法彦 (51) <令和2年4月> 博士(医学)	生物学	中野 法彦 (51) <令和2年4月> 博士(医学)	生物学	中野 法彦 (52) <令和2年4月> 博士(医学)			
専任	教授	千住 秀明 (72) <令和4年4月> 博士(医学)	内部障害系理学療法実習 I 内部障害系理学療法実習 II 内部障害応用論実習 理学療法総合実習	千住 秀明 (70) <令和4年4月> 博士(医学)	内部障害系理学療法実習 I 内部障害系理学療法実習 II 内部障害応用論実習 理学療法総合実習	千住 秀明 (71) <令和4年4月> 博士(医学)			
専任	准教授	分木 ひとみ (62) <令和2年4月> 博士(学術)	学びの基盤 予防医学 リハビリテーション概論 理学療法見学実習 I 理学療法見学実習 II 理学療法見学実習 III 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習 I 理学療法総合臨床実習 II 理学療法地域実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践演習 遊びとレクリエーション 協働連携論総合実習 リハビリテーション総合演習	分木 ひとみ (62) <令和2年4月> 博士(学術)	学びの基盤 予防医学 リハビリテーション概論 競技器具学 I 競技器具学 II 理学療法見学実習 I 理学療法見学実習 II 理学療法見学実習 III 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習 I 理学療法総合臨床実習 II 理学療法地域実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践演習 遊びとレクリエーション 協働連携論総合実習 リハビリテーション総合演習	分木 ひとみ (63) <令和2年4月> 博士(学術)			
専任	准教授	兼清 健志 (41) <令和2年4月> 博士(薬学)	栄養学	兼清 健志 (41) <令和2年4月> 博士(薬学)	栄養学	兼清 健志 (42) <令和2年4月> 博士(薬学)			
専任	講師	植田 昌治 (56) <令和2年4月> 博士(心身健康科学)	日常生活活動学 地域理学療法 基礎理学療法実習 理学療法見学実習 I 理学療法見学実習 II 理学療法見学実習 III 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習 I 理学療法総合臨床実習 II 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	植田 昌治 (56) <令和2年4月> 博士(心身健康科学)	日常生活活動学 地域理学療法 基礎理学療法実習 理学療法見学実習 I 理学療法見学実習 II 理学療法見学実習 III 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習 I 理学療法総合臨床実習 II 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	植田 昌治 (57) <令和2年4月> 博士(心身健康科学)			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	講師	堀 寛史 (42) <令和2年4月> 博士(学術)	専	講師	堀 寛史 (43) <令和2年4月> 博士(学術)	専	講師	堀 寛史 (44) <令和2年4月> 博士(学術)			
	哲学入門 基礎理学療法Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習			哲学入門 基礎理学療法Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習			哲学入門 基礎理学療法Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
専	講師	里中 綾子 (45) <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法)	専	講師	里中 綾子 (45) <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法)	専	講師	里中 綾子 (46) <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法)			
	運動学Ⅱ 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法研究法 小児理学療法実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習			運動学Ⅱ 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法研究法 小児理学療法実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習			運動学Ⅱ 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法研究法 小児理学療法実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
専	講師	和智 道生 (31) <令和2年4月> 修士(スポーツ健康科学)	専	講師	和智 道生 (31) <令和2年4月> 修士(スポーツ健康科学)	専	講師	和智 道生 (32) <令和2年4月> 修士(スポーツ健康科学)			
	スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習			スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習			スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
専	助教	佐藤 隆彦 (35) <令和2年4月> 博士(スポーツ科学)	専	助教	佐藤 隆彦 (35) <令和2年4月> 博士(スポーツ科学)	専	助教	佐藤 隆彦 (36) <令和2年4月> 博士(スポーツ科学)			
	体育 運動生理学実習 生涯スポーツ論 フィットネス論			体育 運動生理学実習 生涯スポーツ論 フィットネス論			体育 運動生理学実習 生涯スポーツ論 フィットネス論				
			実専	教授	富田 昌夫 (73) <令和4年4月> 工学士	実専	教授	富田 昌夫 (74) <令和4年4月> 工学士			
				神経障害系理学療法実習Ⅰ 神経障害系理学療法応用論実習 理学療法総合実習			神経障害系理学療法実習Ⅰ 神経障害系理学療法応用論実習 理学療法総合実習				
実専	准教授	宇於崎 孝 (44) <令和2年4月> 修士(学術)	実専	准教授	宇於崎 孝 (44) <令和2年4月> 修士(学術)	実専	准教授	宇於崎 孝 (45) <令和2年4月> 修士(学術)			
	基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価実習 徒手理学療法実習 神経障害系理学療法実習 スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ ゴルフトレーニング論 理学療法総合実習			基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価実習 徒手理学療法実習 神経障害系理学療法実習 スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ ゴルフトレーニング論 理学療法総合実習			基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価実習 徒手理学療法実習 神経障害系理学療法実習 スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ ゴルフトレーニング論 理学療法総合実習				
実専	講師	川崎 浩子 (54) <令和3年4月> 修士(学術)	実専	講師	川崎 浩子 (53) <令和3年4月> 修士(学術)	実専	講師	川崎 浩子 (54) <令和3年4月> 修士(学術)			
	臨床技能論実習 理学療法評価実習 日常生活活動学 地域理学療法 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習			臨床技能論実習 理学療法評価実習 日常生活活動学 地域理学療法 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習			臨床技能論実習 理学療法評価実習 日常生活活動学 地域理学療法 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習				
実専	講師	鈴木 美香 (40) <令和3年4月> 修士(学術)	実専	講師	鈴木 美香 (39) <令和3年4月> 修士(学術)	実専	講師	鈴木 美香 (40) <令和3年4月> 修士(学術)			
	予防医学 地域包括ケア論 地域理学療法実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践実習			予防医学 地域包括ケア論 地域理学療法実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践実習			予防医学 地域包括ケア論 地域理学療法実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践実習				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実専	講師	弘部 重信 (59) <令和4年4月> 短期大学士	地域包括ケア論 理学療法評価学演習 内部障害系理学療法実習Ⅱ 内部障害応用論実習 地域理学療法実習 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実専	講師	弘部 重信 (57) <令和4年4月> 短期大学士	地域包括ケア論 理学療法評価学演習 内部障害系理学療法実習Ⅱ 内部障害応用論実習 地域理学療法実習 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実専	講師	弘部 重信 (58) <令和4年4月> 短期大学士	地域包括ケア論 理学療法評価学演習 内部障害系理学療法実習Ⅱ 内部障害応用論実習 地域理学療法実習 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
実専	講師	池谷 雅江 (48) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	運動療法実習 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 障がい者スポーツ論実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践実習 協働連携論総合実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実専	講師	池谷 雅江 (48) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	運動療法実習 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 障がい者スポーツ論実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践実習 協働連携論総合実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実専	講師	池谷 雅江 (49) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	運動療法実習 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 障がい者スポーツ論実習 体力測定論 健康増進実践演習 健康増進実践実習 協働連携論総合実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
実専	講師	野口 真一 (35) <令和2年4月> 学士(教養)	スポーツ障害応用論実習 理学療法実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実専	講師	野口 真一 (35) <令和2年4月> 学士(教養)	スポーツ障害応用論実習 理学療法実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実専	講師	野口 真一 (36) <令和2年4月> 学士(教養)	スポーツ障害応用論実習 理学療法実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
実(研)	教授・ 学部長	山内 正雄 (63) <令和2年4月> 修士(学術)	運動学Ⅰ 理学療法管理 理学療法評価学演習 徒手理学療法 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実(研)	教授	山内 正雄 (63) <令和2年4月> 修士(学術)	運動学Ⅰ 理学療法管理 理学療法評価学演習 徒手理学療法 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実(研)	教授	山内 正雄 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	運動学Ⅰ 理学療法管理 理学療法評価学演習 徒手理学療法 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
実(研)	准教授	治郎丸 卓三 (43) <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	運動療法 スポーツ障害系理学療法実習 スポーツ障害応用論実習 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ パフォーマンス向上論 フィットネス論 ランニングトレーニング論 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実(研)	准教授	治郎丸 卓三 (43) <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	運動療法 スポーツ障害系理学療法実習 スポーツ障害応用論実習 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ パフォーマンス向上論 フィットネス論 ランニングトレーニング論 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実(研)	准教授	治郎丸 卓三 (44) <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	運動療法 スポーツ障害系理学療法実習 スポーツ障害応用論実習 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ パフォーマンス向上論 フィットネス論 ランニングトレーニング論 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				
実(研)	准教授	安田 孝志 (47) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	運動学Ⅱ 運動学実習 運動障害系理学療法実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習 ゴルフトレーニング論 ロボット工学地域活用論応用 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実(研)	准教授	安田 孝志 (46) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	運動学Ⅱ 運動学実習 運動障害系理学療法実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習 ゴルフトレーニング論 ロボット工学地域活用論応用 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	実(研)	准教授	安田 孝志 (47) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	運動学Ⅱ 運動学実習 運動障害系理学療法実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習 ゴルフトレーニング論 ロボット工学地域活用論応用 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名				
専任(研)	准教授	大西 均 (45) <令和3年4月> 修士(学術)	理学療法評価学実習 運動器障害系理学療法実習Ⅰ 運動器障害系理学療法実習Ⅱ 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 フィットネス論 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	専任(研)	准教授	大西 均 (45) <令和3年4月> 修士(学術)	鍼灸法実習Ⅰ 鍼灸法実習Ⅱ 理学療法評価学実習 運動器障害系理学療法実習Ⅰ 運動器障害系理学療法実習Ⅱ 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価学実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 フィットネス論 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	専任(研)	准教授	大西 均 (46) <令和3年4月> 修士(学術)	鍼灸法実習Ⅰ 鍼灸法実習Ⅱ 理学療法評価学実習 運動器障害系理学療法実習Ⅰ 運動器障害系理学療法実習Ⅱ 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価学実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 フィットネス論 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任(研)	講師	藤谷 亮 (39) <令和3年4月> 博士(学術)	運動学Ⅱ 運動学実習 理学療法評価学演習 神経障害系理学療法実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価学実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	専任(研)	講師	藤谷 亮 (38) <令和3年4月> 博士(学術)	運動学Ⅱ 運動学実習 理学療法評価学演習 神経障害系理学療法実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価学実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	専任(研)	講師	藤谷 亮 (39) <令和3年4月> 博士(学術)	運動学Ⅱ 運動学実習 理学療法評価学演習 神経障害系理学療法実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価学実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	外池 光雄 (75) <令和2年4月> 工学博士	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 統計学 数学 福祉工学地域活用論	兼任	教授	外池 光雄 (75) <令和2年4月> 工学博士	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 統計学 数学 福祉工学地域活用論	兼任	教授	外池 光雄 (76) <令和2年4月> 工学博士	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 統計学 数学 福祉工学地域活用論	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	三谷 章 (65) <令和2年4月> 博士(医学)	生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	兼任	教授	三谷 章 (65) <令和2年4月> 博士(医学)	生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	兼任	教授	三谷 章 (66) <令和2年4月> 博士(医学)	生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	田中 弘一郎 (66) <令和2年4月> 博士(理学)	薬理学概論	兼任	教授	田中 弘一郎 (66) <令和2年4月> 博士(理学)	薬理学概論	兼任	教授	田中 弘一郎 (67) <令和2年4月> 博士(理学)	薬理学概論	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	埜田 和史 (65) <令和2年4月> 医学博士	労働衛生論 身体障がい者就労環境論	兼任	教授	埜田 和史 (65) <令和2年4月> 医学博士	労働衛生論 身体障がい者就労環境論	兼任	教授	埜田 和史 (66) <令和2年4月> 医学博士	労働衛生論 身体障がい者就労環境論	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	鈴木 規己洋 (63) <令和2年4月> 修士(教育学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	准教授	鈴木 規己洋 (63) <令和2年4月> 修士(教育学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	准教授	鈴木 規己洋 (64) <令和2年4月> 修士(教育学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	大西 満 (53) <令和3年4月> 修士(保健学)	子育て支援論 協働連携論総合実習 障がい者スポーツ論実習	兼任	准教授	大西 満 (52) <令和3年4月> 修士(保健学)	子育て支援論 協働連携論総合実習 障がい者スポーツ論実習	兼任	准教授	大西 満 (53) <令和3年4月> 修士(保健学)	子育て支援論 協働連携論総合実習 障がい者スポーツ論実習	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	園田 悠馬 (39) <令和5年4月> 博士(保健学)	協働連携論総合実習	兼任	講師	園田 悠馬 (39) <令和5年4月> 博士(保健学)	協働連携論総合実習	兼任	講師	園田 悠馬 (39) <令和5年4月> 博士(保健学)	協働連携論総合実習	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	川崎 浩子 (53) <令和2年4月> 修士(学術)	理学療法評価学 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	兼任	講師	川崎 浩子 (53) <令和2年4月> 修士(学術)	理学療法評価学 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	兼任	講師	川崎 浩子 (53) <令和2年4月> 修士(学術)	理学療法評価学 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 美香 (39) <令和2年4月> 修士(学術)	理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	兼任	講師	鈴木 美香 (39) <令和2年4月> 修士(学術)	理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	兼任	講師	鈴木 美香 (39) <令和2年4月> 修士(学術)	理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	安田 孝志 (46) <令和2年4月> 修士(スポーツ科学)	兼任	講師	安田 孝志 (46) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)						
		理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ			理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ						
兼任	講師	大西 均 (44) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	大西 均 (44) <令和2年4月> 修士(学術)						
		理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ			理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ						
兼任	講師	藤谷 亮 (38) <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	講師	藤谷 亮 (38) <令和2年4月> 博士(学術)						
		理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ			理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ						
兼任	講師	飯田 英晴 (68) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	飯田 英晴 (68) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	飯田 英晴 (69) <令和2年4月> 博士(医学)			
		コミュニケーション論 心理学			コミュニケーション論 心理学			コミュニケーション論 心理学			
兼任	講師	丹葉 寛之 (49) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	丹葉 寛之 (50) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	丹葉 寛之 (51) <令和2年4月> 博士(教育学)			
		人間発達学			人間発達学			人間発達学			
兼任	講師	柿本 理津子 (61) <令和2年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	柿本 理津子 (61) <令和2年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	柿本 理津子 (62) <令和2年4月> 修士(音楽)			
		音楽			音楽			音楽			
兼任	講師	李 詔 (56) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	李 詔 (56) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	李 詔 (57) <令和3年4月> 博士(心理学)			
		キャリア発達論			キャリア発達論			キャリア発達論			
兼任	講師	原 未来 (35) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	原 未来 (35) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	原 未来 (36) <令和2年4月> 修士(教育学)			
		教育学			教育学			教育学			
兼任	講師	黒瀬 勉 (69) <令和2年4月> 文学修士	兼任	講師	黒瀬 勉 (69) <令和2年4月> 文学修士	兼任	講師	黒瀬 勉 (70) <令和2年4月> 文学修士			
		倫理学入門			倫理学入門			倫理学入門			
兼任	講師	小沢 道紀 (47) <令和3年4月> 修士(経営学)	兼任	講師	小沢 道紀 (47) <令和3年4月> 修士(経営学)						
		経営学入門 マーケティング論			経営学入門 マーケティング論						
						兼任	講師	売 龍二 (33) <令和3年4月> 修士(スポーツ健康科学)			
								経営学入門 マーケティング論			
兼任	講師	藤原 信行 (45) <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	講師	藤原 信行 (45) <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	講師	藤原 信行 (46) <令和2年4月> 博士(学術)			
		社会学			社会学			社会学			
兼任	講師	松田 美智子 (62) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	松田 美智子 (62) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	松田 美智子 (63) <令和3年4月> 修士(教育学)			
		社会福祉学			社会福祉学			社会福祉学			
兼任	講師	木村 裕樹 (47) <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	講師	木村 裕樹 (48) <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	講師	木村 裕樹 (49) <令和2年4月> 博士(文学)			
		日本の伝統文化			日本の伝統文化			日本の伝統文化			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	平良 聡弘 (43) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任	講師	平良 聡弘 (43) <令和2年4月> 修士(文学)						
		日本の近代史			日本の近代史						
兼任	講師	松井 聖一郎 (57) <令和3年4月> 修士(地域文化研究)	兼任	講師	松井 聖一郎 (57) <令和3年4月> 修士(地域文化研究)						
		韓国語			韓国語						
兼任	講師	呉 凌非 (58) <令和3年4月> 博士(言語学)	兼任	講師	呉 凌非 (58) <令和3年4月> 博士(言語学)						
		中国語			中国語						
兼任	講師	関谷 徹治 (70) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	関谷 徹治 (69) <令和3年4月> 医学博士						
		神経内科学 I 神経内科学 II			神経内科学 I 神経内科学 II						
兼任	講師	真下 いずみ (42) <令和3年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	真下 いずみ (41) <令和3年4月> 修士(保健学)						
		精神医学			精神医学						
兼任	講師	吉田 忍 (50) <令和3年4月> 博士(医学)	兼任	講師	吉田 忍 (49) <令和3年4月> 博士(医学)						
		小児科学			小児科学						
兼任	講師	藤本 雅子 (51) <令和3年4月> 修士(学術)	兼任	講師	藤本 雅子 (50) <令和3年4月> 修士(学術)						
		老年医学			老年医学						
兼任	講師	山城 尊靖 (47) <令和3年4月> 学士(保健衛生学)	兼任	講師	山城 尊靖 (46) <令和3年4月> 学士(保健衛生学)						
		画像診断学			画像診断学						
兼任	講師	小田 泰宏 (67) <令和5年4月> 法学士	兼任	講師	小田 泰宏 (64) <令和5年4月> 法学士						
		保健医療福祉関連制度論			保健医療福祉関連制度論						
兼任	講師	前川 昭次 (60) <令和4年4月> 学士(教養)	兼任	講師	前川 昭次 (58) <令和4年4月> 学士(教養)						
		運動器障害系理学療法学実習 II			運動器障害系理学療法学実習 II						
兼任	講師	平岩 康之 (57) <令和4年4月> 修士(学術)	兼任	講師	平岩 康之 (55) <令和4年4月> 修士(学術)						
		内部障害系理学療法学実習 I			内部障害系理学療法学実習 I						
兼任	講師	白星 伸一 (57) <令和3年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	白星 伸一 (56) <令和3年4月> 修士(社会学)						
		小児期理学療法学演習			小児期理学療法学演習						
兼任	講師	武富 純子 (53) <令和2年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	武富 純子 (53) <令和2年4月> 修士(社会学)						
		老年期理学療法学演習 ボランティア論			老年期理学療法学演習 ボランティア論						
兼任	講師	永田 かおり (50) <令和4年4月> 専修学校卒	兼任	講師	永田 かおり (48) <令和4年4月> 専修学校卒						
		施設起業運営論			施設起業運営論						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	角野 文彦 (64) <令和2年4月> 医学士	兼任	講師	角野 文彦 (64) <令和2年4月> 医学士						
		災害支援論			災害支援論						
兼任	講師	黒田 吉孝 (72) <令和4年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	黒田 吉孝 (71) <令和4年4月> 博士(教育学)						
		教育支援論			教育支援論						
兼任	講師	後藤 真吾 (67) <令和4年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	後藤 真吾 (66) <令和4年4月> 学士(社会学)						
		教育支援論			教育支援論						
兼任	講師	首藤 賢 (50) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	首藤 賢 (48) <令和4年4月> 修士(文学)						
		メンタルヘルスマネジメント論			メンタルヘルスマネジメント論						
兼任	講師	山本 高之 (42) <令和4年4月> 学士(工学)	兼任	講師	山本 高之 (40) <令和4年4月> 学士(工学)						
		地域共生論			地域共生論						
兼任	講師	山本 紀呂己 (43) <令和4年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	山本 紀呂己 (41) <令和4年4月> 学士(社会学)						
		地域共生論			地域共生論						
兼任	講師	吉田 和也 (36) <令和4年4月> 専修学校卒	兼任	講師	吉田 和也 (34) <令和4年4月> 専修学校卒						
		スポーツリズムトレーニング論			スポーツリズムトレーニング論						
兼任	講師	久田 信孝 (40) <令和4年4月> 専修学校卒	兼任	講師	久田 信孝 (38) <令和4年4月> 専修学校卒						
		スポーツリズムトレーニング論			スポーツリズムトレーニング論						
兼任	講師	森 宣裕 (35) <令和4年4月> 学士(人間健康科学)	兼任	講師	森 宣裕 (33) <令和4年4月> 学士(人間健康科学)						
		スポーツリズムトレーニング論			スポーツリズムトレーニング論						
兼任	講師	奥村 竜也 (46) <令和4年4月> 高等学校卒	兼任	講師	奥村 竜也 (44) <令和4年4月> 高等学校卒						
		ゴルフトレーニング論			ゴルフトレーニング論						
兼任	講師	石倉 康次 (70) <令和4年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	石倉 康次 (68) <令和4年4月> 修士(社会学)						
		生きがい創造			生きがい創造						
兼任	講師	奥田 援史 (59) <令和4年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	奥田 援史 (57) <令和4年4月> 修士(体育学)						
		伝承遊び			伝承遊び						
兼任	講師	三田 敦士 (44) <令和4年4月> 学士(工学)	兼任	講師	三田 敦士 (42) <令和4年4月> 学士(工学)						
		シューフィッティング論			シューフィッティング論						
兼任	講師	谷田 惣亮 (48) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	講師	谷田 惣亮 (46) <令和4年4月> 博士(工学)						
		ロボット工学地域活用論基礎 ロボット工学地域活用論応用			ロボット工学地域活用論基礎 ロボット工学地域活用論応用						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	小澤 拓也 (54) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	講師	小澤 拓也 (52) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	講師	小澤 拓也 (53) <令和4年4月> 博士(工学)			
		ロボット工学地域活用論基礎 ロボット工学地域活用論応用			ロボット工学地域活用論基礎 ロボット工学地域活用論応用			ロボット工学地域活用論基礎 ロボット工学地域活用論応用			
兼任	講師	家村 薫 (41) <令和4年4月> 専修学校卒	兼任	講師	家村 薫 (39) <令和4年4月> 専修学校卒	兼任	講師	家村 薫 (40) <令和4年4月> 専修学校卒			
		組織運営論			組織運営論			組織運営論			
兼任	講師	柴田 恵子 (67) <令和4年4月> 準学士(看護)	兼任	講師	柴田 恵子 (65) <令和4年4月> 準学士(看護)	兼任	講師	柴田 恵子 (66) <令和4年4月> 準学士(看護)			
		組織運営論			組織運営論			組織運営論			
兼任	講師	渡邊 和湖 (53) <令和4年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	渡邊 和湖 (51) <令和4年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	渡邊 和湖 (52) <令和4年4月> 学士(社会学)			
		地域共生論			地域共生論			地域共生論			
兼任	講師	兵頭 勇太郎 (32) <令和4年4月> 学士(保健学)	兼任	講師	兵頭 勇太郎 (30) <令和4年4月> 学士(保健学)	兼任	講師	兵頭 勇太郎 (31) <令和4年4月> 学士(保健学)			
		ビジョントレーニング論			ビジョントレーニング論			ビジョントレーニング論			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入して
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任・兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**黒字又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任・兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、括めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

区分不適格、科目不適格により、科目担当者が未定となっていた6科目について、担当教員が決定。令和元年12月教員審査済。
【科目の追加】
准教授 分木ひとみ「義肢装具学Ⅰ」、「義肢装具学Ⅱ」を追加。
准教授 安田孝志「物理療法学」を追加。
准教授 大西均「義肢装具学Ⅰ」、「義肢装具学Ⅱ」を追加。
【新規採用】
教授 富田昌夫新規採用（令和元年12月AC教員審査済み）「神経障害系理学療法学実習Ⅰ」、「神経筋骨格障害応用論実習」、「理学療法総合実習」

【令和3年度】

【担当教員の変更】
兼任教員 小沢 道紀の就任辞退により「経営学入門」及び「マーケティング論」の担当教員を兼任教員 禿 慧二に変更。
【兼任教員が専任教員として着任したことに伴う変更（設置計画時の予定通り）】
兼任であった川崎浩子が実専の講師として着任。
兼任であった鈴木美香が実専の講師として着任。
兼任であった安田孝志が実（研）の准教授として着任。
兼任であった大西均が実（研）の准教授として着任。
兼任であった藤谷亮が実（研）の講師として着任。

【令和4年度】

【令和5年度】

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
14 名	7 名	6 名	3 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
7	6	10	1	24	1	6	6	9	1	22	1
(5)	(4)	(6)	(1)	(16)	(1)						
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/		
14	5	5				11	5	5			
(11)	(3)	(2)				(11)	(3)	(2)			
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
8	6	10	1	25	1	8	6	10	1	25	1
[1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/		
14	6	5				14	6	5			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	4 名	7 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{24} = \boxed{104.16} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{4}{22} = \boxed{18.18} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
							必修	選択		
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
							必修	選択		
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{24} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
			必修			
		該当なし	必修			
			選択			
			自由			
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人		必修 0 科目	必修 0 科目	必修 0 科目	必修 0 科目
			選択 0 科目	選択 0 科目	選択 0 科目	選択 0 科目
			自由 0 科目	自由 0 科目	自由 0 科目	自由 0 科目
			計 0 科目	計 0 科目	計 0 科目	計 0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	カリキュラム・ポリシーに定めた「倫理観に基づき生命を尊重する態度」及び「理学療法士又は作業療法士に必要なコミュニケーション能力」の涵養について、臨地実務実習における具体的な教育内容及び評価基準をシラバスに明示するとともに、学生に対して周知すること。	遵守事項 臨地実務実習の教育内容及び評価基準についてシラバスに記載し、学生への周知を行った。	履行済
認 可 時 (令和元年)	カリキュラム・ポリシー5における「他分野の専門学力を修得」と、対応する授業科目の到達目標とで、その水準に不整合があることから、双方の整合を図ること	遵守事項 該当する科目は、生涯スポーツ論、内部障害応用論実習、体力測定論、遊びとレクリエーション、フィットネス論、地域包括ケア論、パフォーマンス向上論、ランニングトレーニング論、障害者スポーツ論、ロボット工学地域活用論応用が該当していたが、これらの科目は「修得する」水準に修正し、整合を図った。	履行済
認 可 時 (令和元年)	「職業資格や技能検定に基づいて、展開科目の中で、読み替えに該当する授業科目がある場合」における展開科目の既修得単位の認定について、入学者が有していることが想定される職業資格や技能検定に係る主な認定科目とその基準を予め明らかにすること。また、「英語Ⅰ・Ⅱ」の既修得単位の認定について、英語検定、TOEIC及びTOEFLの点数に応じて認定することだが、その認定基準を予め明確にすること。	遵守事項 基準については、次のように明確にし、学生便覧に記載し、オリエンテーション等で学生に周知している。 「中級障がい者スポーツ指導員資格」→「障がい者スポーツ論」「障がい者スポーツ論実習」の単位認定 「メンタルヘルスマネジメント検定2級」→「メンタルヘルスマネジメント論」 「スポーツリズムトレーニング」→「スポーツリズムトレーニング論」の単位認定 「ゴルフフィジオトレーナー」→「ゴルフトレーニング論」の単位認定 「英語Ⅰ」→「英語検定2級」、「TOEIC 500点以上」で単位認定 「英語Ⅰ及び英語Ⅱ」→「英語検定準1級」、「TOEIC 551以上」で単位認定	履行済

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>社会人推薦入試について、学部及び学科それぞれのアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を確実に担保するよう適切に実施すること。また、一般学生並びに社会人学生の双方の教育に支障を来すことがないように、適切な履修指導体制を整備すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>令和3年度の社会人入試では、志望理由書20%、個人面接40%、小論文40%で判定を行った。本学科志望理由を踏まえた個人面接を実施し、アドミッション・ポリシーにある、社会貢献への意欲、対人協調性、問題解決意欲、論理的思考力と柔軟な発想力の潜在性を可能な限り測定している。また、小論文においては、自身の考えを論述するもので、適切な日本語能力、現代社会に関する知識とともに医療人として社会貢献しようという意欲や論理的な思考力など、本学のアドミッション・ポリシーの中核的な資質を見るものである。残念ながら令和3年度は志願者がいなかったが、次年度に向けて継続して行う。</p> <p>また、開学当時から継続している学年担当、クラス担任制をとることで、一般学生、社会人学生双方に対して、履修指導に支障が出ないような体制を整備している。</p>
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>指定校推薦入試及び公募制推薦入試について、例えばGPA平均値など、推薦基準を明らかにすること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>高等学校長あてに送付している指定校推薦入試の通知に記載している内容の例は以下の通りである。</p> <p>①推薦枠 リハビリテーション学部 理学療法学科 対象1名</p> <p>②推薦基準 以下の要件をすべて満たしている者</p> <p>(1) 2020年3月に高等学校卒業見込みの者</p> <p>(2) 学業成績・人物とも優れ、心身ともに健康で、志願する学科について、出身学校 長が責任を持って推薦できる者</p> <p>(3) 本学に合格した場合、必ず入学する者（専願であること）</p> <p>(4) 評定平均値 理学療法学科：3.5以上</p> <p>評定平均値については、各高等学校の進学実績やこれまでの滋賀医療技術専門学校での入学実績等を勘案して、令和2年度においては3.0から4.0まで個別に割り振っている。なお、1で回答したように、令和3年度の指定校推薦入試においてはこの基準を緩和し、本学が求める基礎学力が担保できる推薦基準となるよう修正している。</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画	
認 可 時 (令和元年)	「英語Ⅱ」のシラバスにおける到達目標について、英語検定、TOEIC及びTOEFL等の外部検定における到達度を例示するなど、授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力をより具体的に明示すること。	遵守事項 以下の通りシラバスに記載済み。 「TOEIC450点が取れるレベルに到達することを目標とする。」	履行済	
認 可 時 (令和元年)	1単位科目の単位設定の考え方について、科目ごとの予習・復習内容を含めて、学生が1単位15時間の授業科目と1単位30時間の授業科目の違いを理解しやすいようシラバスに明示すること。	遵守事項 単位設定の考え方をまとめた資料を作成し、学生便覧に記載している。	履行済	
認 可 時 (令和元年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項 設置の趣旨に示したように、地域社会との連携の強化を進めている。具体的には、本学の所在地である東近江市、隣接町である日野町、職能団体である滋賀県理学療法士会などと協定を締結し、教育や地域社会への貢献に努めている。教育に関しては、設置計画に基づき、機器備品、教育環境の整備を進めている。教育研究活動については、FD・SD推進委員会を中心に教育能力向上のための取り組みを開始した。その結果、令和3年度には4名が新規に採択され、6名が継続して研究を続けている。	履行中	設置計画を着実に履行していく。 教育研究活動に関しては、学内でのFD・SD活動及び学外の学術団体や医療機関での研修等の参加を促進し、教員個々の能力の向上に努める。
認 可 時 (令和元年)	教育・研究に要する図書等について、「経年的に整備する」こととしているが、具体的な整備計画を明らかにすること。	遵守事項 R1年度に図書333冊、電子書籍115冊、R2年度には233冊、R3年には175冊を設置経費にて購入する計画となっている。それ以外に完成年度までの図書等の購入費として年間100万円の経常経費を確保しており、展開科目等に係る図書を約200冊、研究や専門分野に関する図書を約150冊を購入する予定である。この他にも2021年には1000冊程度の図書の寄贈を受ける予定となっている。	履行済	

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	教員の補充が必要とされた6授業科目については、科目開講時まで確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項	令和元年12月のAC教員審査において適合の判定を受け、充足済み。	履行済
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (リハビリテーション学部理学療法学科)	指摘事項 (改善)	令和3年度の新入生は、89名であり、入学定員を充足した。	履行済

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<リハビリテーション学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 授業形態の変更	① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響があり、一部の科目でオンライン授業を行っている。 これは周辺府県の緊急事態宣言の発令に伴う措置であり、緊急事態宣言が解除されれば対面授業に戻す予定である。 しかし、理学療法見学実習Ⅰについては、実習先の受入が困難であるため、学内実習に変更する。
② 学則の変更	② 学則にメディアを利用して行う授業の条文の追加、成績評価の方法のGPAにS評価を追加した。 また、学費については入学金を15万円減額し、2年次以降の実験実習費を5万増額した。 いずれの学則変更も事前に専門教育課に事前に相談をした上での変更である。
③ 実習施設の追加	③ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実習施設から一時的に受け入れを停止する連絡等もあったため、受け入れ可能な新規実習施設の追加申請を行った。
④ シラバスの表記の修正	④ シラバスの内容をわかりやすくするために、表記の一部を修正した。事前に専門教育課に相談済である。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SD推進委員会が設置されている。規程を以下に転載する。</p> <p>びわこリハビリテーション専門職大学FD・SD推進委員会規程 [2020年4月1日制定]</p> <p>(目的・設置)</p> <p>第1条 びわこリハビリテーション専門職大学(以下「本学」という。)の教育理念及び学部、学科の教育目標に基づく教育活動の質向上の支援を目的とし、びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第9条第1項に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学FD・SD推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 委員会は、各教員の教育力を高め教育の質の向上を図ること、また教職員を対象とする大学運営及び教育・学生支援活動における能力と資質の向上を図ることを目的とし、次の各号に掲げる事項を任務とする。</p> <p>(1) FD・SDの基本方針に関する事項</p> <p>(2) FD・SD研修プログラム等の企画・立案及び実施に関する事項</p> <p>(3) 授業評価アンケート、その他授業の改善に関する事項</p> <p>(4) FD・SDの啓発活動に関する事項</p> <p>(5) その他FD・SD活動推進に関する事項</p> <p>(委員会の構成)</p> <p>第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。</p>

- (1) 学部長
- (2) 各学科より選出された教員 各1名
- (3) 教務委員会委員長
- (4) 事務センター長
- (5) その他学部長が必要と認める者
(委員長等)

第4条 委員会には委員長を置き、学部長がこれを指名する。

2 委員会は、必要に応じ、委員長が委員の中から指名する副委員長を置くことができる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に支障があるときはこれを代行する。

(委員会の運営)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長の招集により開催する。

2 委員会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。

(所管)

第7条 この委員会の事務の所管は、事務センター学生支援グループとする。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議の承認を必要とする。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

b 開催状況（教員の参加状況含む）

令和2年6月12日（金） 7名の構成員の内、6名出席（内4名が教員）

c 委員会の審議事項等

- (1) 委員長の選任
- (2) 授業アンケートについて
- (3) FD・SD研修会の実施について

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 科研費獲得に向けた研修会(2020年9月24日)
科学研究費の申請・獲得に向けて
研究倫理及びコンプライアンスについて
- ・ 自学自習を促すシラバス作成法(2020年10月27日)

b 実施方法

講義形式で実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 科研費獲得に向けた研修会(2020年9月24日)
科学研究費の申請・獲得に向けて
研究倫理及びコンプライアンスについて
教員の参加状況 31名出席(後日の動画視聴、APRIN等の受講も含む)
- ・ 自学自習を促すシラバス作成法(2020年10月27日)
教員の参加状況 14名出席

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生が身につけるべき能力を主体としたシラバス表記に改めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期後期のそれぞれの中間、終了時の4回に分けて実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

各科目の教員はLMS上で自身の担当科目のアンケート結果を閲覧することが出来る。

学生への公開については、現在方法等を含めて検討中である。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。) 設置済み。委員については、1名追加があったため、別途加筆した名簿を添付します。

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

令和2年度 第1回 令和3年3月11日

c 委員会の審議事項等

- ① 教育内容の特色説明及び今年度の教育活動報告及び次年度の教育活動目標
- ② 今後の本学と教育課程連携協議会の協力体制について

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・ 地域との連携による臨地実務実習の実習施設の確保に関する意見交換
- ・ 臨床実習施設から、現場での状況を踏まえた教育内容への提言。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・ 完成年度後の改正に向けて、教育課程改正ワーキンググループを設置し、協議会の意見を反映させる形での教育課程の検討を開始する予定である。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・ 現状のシラバスを変更しない範囲で、協議会の意見を取り入れていくように、該当科目の教員に情報を共有している。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
教育活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一部の臨地実務実習が学内実習に変更することになったが、教育効果を落とさないように努めている。その結果として、退学者1名、休学者1名にとどめることができ、コロナ禍の中で一定の結果が出せたと考えている。
また、研究活動についてであるが、FSD活動に取り組み、教員の資質向上を図ってきた。その結果、今年度科研費の新規採択は4件、継続課題は6件の計10件の研究が進められている。
地域貢献活動については、学校の所在地である東近江市、隣接する町、日野町、また、職能団体である滋賀県理学療法士会と協定を締結し、今後、共同で事業を行っていく予定である。
このように開学1年が経過した段階ではあるが、一定の結果は残せているものとする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期
記入例）
・令和3年11月1日 公表予定

b 公表方法
・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画
(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)
・機関別認証評価、分野別認証評価ともに完成年度後に受審を予定している。
現時点では、機関別認証評価機関として、大学基準協会または高等教育評価機構のいずれかを考えている。
分野別認証評価については、今後認証評価機関が定まったのちに、対応を検討する。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した計画を記入ください。
- 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
- 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。
その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目) ・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目) <p>本学は、多様な人材確保のため、入学者選抜において、推薦入試の中に社会人推薦入試を用意しており、高等学校卒業見込の者又は既卒者以外に、学び直しの機会を求める社会人にも門戸を開いている。社会人推薦入試の出願資格には、「入学時において社会人経験としての実務経験を1年以上有する者」とし、その実務経験は、パートタイム、アルバイト等も実務経験に含むこととしている。また、入学者選抜においても、机上の学修から離れ、時間が経っていても、社会人としての経験を選考の判断材料の1つとして重視し、学び直したいという強い意志を持った者に機会が与えられるように配慮している。</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p>令和3年度入試でも社会人推薦入試を設定したが、受験者は0名であった。令和4年度以降の入学者選抜においても社会人推薦入試は実施する予定である。</p>

② 臨地実務実習

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先の確保の状況 <p>理学療法及び作業療法の対象は、子どもから成人、高齢者まで幅広い年齢層となり、その領域は医療分野から介護、福祉分野まで多岐にわたる。本学の臨地実務実習では、これら幅広い対象者への理学療法及び作業療法を経験させるため、滋賀県を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等、急性期から生活期までの様々な領域の実習施設を確保している。実習先の確保状況は、臨地実務実習受入承諾書のとおりであり、理学療法学科は107施設、作業療法学科は56施設からその承諾を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習水準の確保の方策 <p>実習水準が確保できるように次の取り組みを行っている。</p> <p>臨床実習指導者会議の開催 会議の内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 当該年度に実施した臨床実習の結果報告 ② 次年度の臨床実習の目的・目標・実習方法(診療参加型実習についての研修)・評価方法について ③ 実習指導者と学生の面談 ④ 学生指導で困ったこと、効果的な実習方法に関する意見交換など <p>実習に参加する学生もOSCEなどを経て、一定の水準に達していることを前提とし、実習の水準確保に努めている。</p>	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>実習施設の確保については、現時点で減少はなく、増加している。増加している理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に実習受入が困難という施設が出てきたことにより、受け入れ可能な実習施設の追加が必要となったためである。</p> <p>今年度実施する見学実習については、臨床実習指導者会議は行わないが、事前に教員と指導者との打ち合わせを行った上で実習を行うこととしている。 なお、評価実習からは臨床実習指導者会議を行う予定としている。</p>

びわこリハビリテーション専門職大学

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先との連携体制 <p>各実習施設に最低1名の専任教員（実習担当教員）を配置する。実習中は、各実習施設の担当となっている実習担当教員が、各学生の個性に即した実習指導が進行するようにサポートする。全ての実習において、実習開始後1週間程で再度電話連絡を行い、学生の実習がスムーズに進行していることの確認を行う。</p> <p>評価実習および総合臨床実習Ⅰ・Ⅱでは、実習期間中に必ず1回以上の巡回指導を行い、実習指導者との面談を行うことにより、実習の進捗状況や学生の問題点の把握、ならびにその他健康・生活上の様子を確認する。また、実習に問題が生じた場合は、必要に応じて再度巡回指導を行い、実習担当教員が実習施設側の要請に応じて協同して指導を行う。</p>	<p>現時点で実施されているのは見学実習のみであり、巡回指導等を行っていないが、事前打ち合わせ等を行うなど、実習施設と教員が連携を取りながら実習を進めている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の実習が学内実習に切り替わる可能性があるが、可能な範囲で施設での実習ができるように、施設側との調整を行っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携実務演習等 	<p>記載なし</p>

③ その他

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置 <p>理学療法学科及び作業療法学科共に40人以下で授業を行うことを原則としている。</p>	<p>※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>理学療法学科の1年生のみ、1クラスが44名、45名の40名を超えて授業を行っている。40名を超えて授業を行うことで教育効果が低下しないように、AV機器の設置、LMSの導入など環境整備を進めると同時に、学生個々の学習状況等を把握し、問題が発生する前に対応できるようにクラス担任、学年担当制を採用し、定期的に行われる学科会議で学生に関する情報を共有し、学生指導に活かしている。</p> <p>さらに、定期試験後に不合格となった学生に対して再試験までの間に、オフィスアワー重点期間を設け、再試験に合格できるよう学生の指導に当たることとしている。令和3年度からは、学習支援センターを設置し、学生の学習支援を行う体制を整え、40名を超えて授業を行う場合であっても教育効果を落とさないように努めている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学前の実務経験を単位に換算した場合、その実施状況（換算の対象とした実務経験の内容と、換算した単位数、適切な換算が行われていることを説明すること。また換算の根拠となる規定等も添付すること） 	<p>該当なし</p>

びわこリハビリテーション専門職大学 教育課程連携協議会 協議員 一覧

専門職大学設置基準 第11条第2項

号数	区分	所属・氏名			
1	学長が指名する教員その他の職員	リハビリテーション学部長	理学療法学科長	作業療法学科長	学校法人藍野大学 副理事長 山本 嘉人 ※令和3年3月より追加
2	当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの	滋賀県理学療法士会 会長 平岩 康之	滋賀県作業療法士会 会長 宮内 吉則	—	—
3	地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者	滋賀県健康医療福祉部 理事 角野 文彦	—	—	—
4	臨地実務実習(第29条第1項第4号に規定する臨地実務実習をいう。)その他の授業科目の開設又は授業の実施において当該専門職大学と協力する事業者	市立長浜病院 リハビリテーション技術科 主査 西村 圭二(PT)	マキノ病院 リハビリテーション科 科長 杉原 治(OT)	—	—
5	当該専門職大学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの	滋賀県医師会 会長 越智 眞一	東近江市地域包括支援センター センター長 河島 克彦	滋賀県(滋賀県立リハビリテーションセンター) 主査 乙川 亮	—

9月15日現在差替版
私立専大 8

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 専門職大学の設置

注1

認可

びわこリハビリテーション専門職大学

注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人藍野大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 専門職大学事務センター

職名・氏名 センター^{チョウダイリ}長代理^{イワサキコウジ} 岩崎康司

電話番号 0749-46-2311

（夜間） 090-3871-8047

e-mail soumuka@kanri-si.aino.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

リハビリテーション学部

<作業療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	29
※ 補足説明資料	33
添付資料	35
① 教育課程連携協議会 名簿	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人藍野大学

(2) 大学名

びわこリハビリテーション専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒527-0145
滋賀県東近江市北坂町967

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コヤマ ヒデオ) 小山 英夫 (令和3年4月)	—	
学長	(ヤマカワ マサノブ) 山川 正信 (令和2年4月)	—	
学部長	(ヤマダ ヒサオ) 山田 久夫 (令和2年4月)	—	
学科長	(イデ チヅカ) 井出 千束 (令和2年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
リハビリテーション学部 作業療法学科 作業療法学士（専門職）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	4年	40人	—人	160人	新規入学者を募集	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40人 () []	—人 () []	40人 () []	—人 () []	0.63倍	—							
志願者数	17 () []	— () []	66 () []	— () []									
受験者数	16 () []	— () []	64 () []	— () []									
合格者数	17 () []	— () []	60 () []	— () []									
B 入学者数	14 () []	— () []	37 () []	— () []									
入学定員超過率 B/A	0.35		0.92										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	14 [-] (-)	— [-] (-)	37 [-] (-)	— [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
2年次	/		14 [-] (-)	— [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
3年次			/		/		[] [] ()				
4年次	/						/		[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()
計			14 [-] (-)	—	51 [-] (-)	—			[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	14人	0人	令和2年度	0人	0人	
令和3年度	51人	0人	令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合計		0人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{51} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 作業療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	1									
	コミュニケーション論	1前	1									1
	音楽	1後		1								1
	キャリア発達論	2後	1									1
	教育学	1前	1									1
	倫理学入門	1前	1									1
	哲学入門	1前		1								1
	心理学	1後	1									1
	経営学入門	2前		1								1
	社会学	1前	1									1
	日本の伝統文化	1前		1								1
	日本の近代史	1前		1								1
	体育	1後		1								1
	生物学	1前	1									1
	物理学Ⅰ	1前	1			1						
	物理学Ⅱ	1後		1		1						
	統計学	2後	1			1						
	数学	1前		1		1						
	英語Ⅰ	1前	1				1					
	英語Ⅱ	1後		1			1					
韓国語	2後		1								1	
中国語	2後		1								1	
小計(22科目)	-	-	11	11	0	1	1	1				14
職業専門科目	学科長	1前	2			1						
	解剖学Ⅱ	1後	2			1						
	解剖学Ⅲ	1後	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	2			1						
	生理学Ⅱ	1後	2			1						
	運動学Ⅰ	1前	1				1					
	運動学Ⅱ	1後	1				1					
	運動学実習【※】	2前	1				1					
	人間発達学	1後	1									1
	救急援助論	2後	1									1
	内科学Ⅰ	2前	1									1
	内科学Ⅱ	2後	1									1
	神経内科学Ⅰ	2前	1									1
	神経内科学Ⅱ	2後	1									1
	整形外科Ⅰ	2前	1									1
	整形外科Ⅱ	2後	1									1
	精神医学	2前	1									1
	小児科学	2前	1									1
	老年医学	2前	1									1
	薬理学概論	1後	1			1						
	予防医学	3前	1									3
	画像診断学	2前	1									1
	栄養学	2前	1									1
	社会福祉学	2後	1									1
地域包括ケア論	2後	1									1	
リハビリテーション概論	1前	1				1						
作業療法学総論	1前	1				1						
基礎作業学	1前	1						1				
基礎作業学実習Ⅰ【※】	1前	1					1					
基礎作業学実習Ⅱ【※】	1後	1							1			
作業療法研究法	3前	1			1							
作業療法管理・制度論	1後	1				1						
作業療法と倫理	1後	1				1						
作業療法評価学総論	1後	1							1			

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	1									
	コミュニケーション論	1前	1									1
	音楽	1後		1								1
	キャリア発達論	2後	1									1
	教育学	1前	1									1
	倫理学入門	1前	1									1
	哲学入門	1前		1								1
	心理学	1後	1									1
	経営学入門	2前		1								1
	社会学	1前	1									1
	日本の伝統文化	1前		1								1
	日本の近代史	1前		1								1
	体育	1後		1								1
	生物学	1前	1									1
	物理学Ⅰ	1前	1				1					
	物理学Ⅱ	1後		1			1					
	統計学	2後	1				1					
	数学	1前		1			1					
	英語Ⅰ	1前	1					1				
	英語Ⅱ	1後		1				1				
韓国語	2後		1								1	
中国語	2後		1								1	
小計(22科目)	-	-	11	11	0	1	1	1				14
職業専門科目	解剖学Ⅰ	1前	2			1						
	解剖学Ⅱ	1後	2			1						
	解剖学Ⅲ	1後	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	2			1						
	生理学Ⅱ	1後	2			1						
	運動学Ⅰ	1前	1				1					
	運動学Ⅱ	1後	1				1					
	運動学実習【※】	2前	1				1					
	人間発達学	1後	1									1
	救急援助論	2後	1									1
	内科学Ⅰ	2前	1									1
	内科学Ⅱ	2後	1									1
	神経内科学Ⅰ	2前	1									1
	神経内科学Ⅱ	2後	1									1
	整形外科Ⅰ	2前	1									1
	整形外科Ⅱ	2後	1									1
	精神医学	2前	1									1
	小児科学	2前	1									1
	老年医学	2前	1									1
	薬理学概論	1後	1					1				
	予防医学	3前	1									3
	画像診断学	2前	1									1
	栄養学	2前	1									1
	社会福祉学	2後	1									1
地域包括ケア論	2後	1									1	
リハビリテーション概論	1前	1						1				
作業療法学総論	1前	1						1				
基礎作業学	1前	1							1			
基礎作業学実習Ⅰ【※】	1前	1							1			
基礎作業学実習Ⅱ【※】	1後	1								1		
作業療法研究法	3前	1						1				
作業療法管理・制度論	1後	1							1			
作業療法と倫理	1後	1							1			
作業療法評価学総論	1後	1								1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ【※】	2前	1					1				
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ【※】	2前	1					1				
	精神障害作業療法評価学実習【※】	2前	1						1			
	発達障害作業療法評価学実習【※】	2前	1				1					
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1					1				
	運動器疾患作業療法実習【※】	2後	1					1				
	中枢神経疾患作業療法実習【※】	2後	1						1			
	高次脳機能障害作業療法実習【※】	3前	1						1			
	精神障害作業療法	2後	1						1			
	精神障害作業療法実習【※】	3前	1						1			
	発達障害作業療法実習Ⅰ【※】	2後	1				1					
	発達障害作業療法実習Ⅱ【※】	3前	1				1					
	老年期障害作業療法	2後	1							1		
	老年期障害作業療法実習【※】	3前	1					1				
	日常生活活動論実習【※】	2前	1						1			
	社会生活行為論実習【※】	2前	1						1			
	作業分析活用論	2後	1				1					
	作業分析活用論実習【※】	2後	1						1			
	家族援助論	3前	1				1					
	住環境支援論	3前	1								1	
	作業療法義肢装具実習【※】	2後	1					1				
	生活行為向上マネジメント論実習【※】	3前	1						1			
	地域生活作業療法学総論	2前	1				1					
	地域生活作業療法学実習Ⅰ【※】	2後	1								1	
	地域生活作業療法学実習Ⅱ【※】	2後	1							1		
	地域生活作業療法学実習Ⅲ【※】	3前	1								1	
	作業療法見学実習Ⅰ【臨】	1後	1						3	4		
	作業療法見学実習Ⅱ【臨】	2前	1						3	4		
	作業療法評価実習【臨】	3前	5				1	1	3	4		
作業療法総合臨床実習Ⅰ【臨】	3後	7				1	1	3	4			
作業療法総合臨床実習Ⅱ【臨】	4前	7				1	1	3	4			
作業療法地域実習【臨】	4前	1				1	1	3	4			
小計(66科目)	-	-	86	0	0	5	1	3	4	12		
展開科目	マーケティング論	2後	1							1		
	施設起業運営論	3前	1							1		
	ボランティア論	1前	1							1		
	子育て支援論	2前	1			1						
	災害支援論	1後	1								1	
	教育支援論	2後	1							2		
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1							1		
	障がい者スポーツ論	3後	1							1		
	障がい者スポーツ論実習【※】	4前	1			1				2		
	地域社会共生論	1前	2							1		
	地域社会共生論実習【※】	1後	1							1		
	精神障がい者就労環境論	3後	2							1		
	身体障がい者就労環境論	3後	2							1		
	就労環境論実習【※】	4前	1							1		
	老年期地域生活適応論	3後		2						1		
	老年期地域生活適応論実習【※】	4前		1						1		
	成人期地域生活適応論	3後		2						1		
	成人期地域生活適応論実習【※】	4前		1						1		
	児童期地域生活適応論	3後		2						1		
	児童期地域生活適応論実習【※】	4前		1						1		
小計(20科目)	-	-	17	9	0	1	1			16		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ【※】	2前	1						1			
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ【※】	2前	1						1			
	精神障害作業療法評価学実習【※】	2前	1							1		
	発達障害作業療法評価学実習【※】	2前	1					1				
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1						1			
	運動器疾患作業療法実習【※】	2後	1						1			
	中枢神経疾患作業療法実習【※】	2後	1							1		
	高次脳機能障害作業療法実習【※】	3前	1							1		
	精神障害作業療法	2後	1						1			
	精神障害作業療法実習【※】	3前	1						1			
	発達障害作業療法実習Ⅰ【※】	2後	1					1				
	発達障害作業療法実習Ⅱ【※】	3前	1					1				
	老年期障害作業療法	2後	1								1	
	老年期障害作業療法実習【※】	3前	1							1		
	日常生活活動論実習【※】	2前	1							1		
	社会生活行為論実習【※】	2前	1							1		
	作業分析活用論	2後	1				1					
	作業分析活用論実習【※】	2後	1							1		
	家族援助論	3前	1					1				
	住環境支援論	3前	1								1	
	作業療法義肢装具実習【※】	2後	1							1		
	生活行為向上マネジメント論実習【※】	3前	1								1	
	地域生活作業療法学総論	2前	1					1				
	地域生活作業療法学実習Ⅰ【※】	2後	1								1	
	地域生活作業療法学実習Ⅱ【※】	2後	1								1	
	地域生活作業療法学実習Ⅲ【※】	3前	1								1	
	作業療法見学実習Ⅰ【臨】	1後	1							3	4	
	作業療法見学実習Ⅱ【臨】	2前	1							3	4	
	作業療法評価実習【臨】	3前	5				1	1	3	4		
作業療法総合臨床実習Ⅰ【臨】	3後	7				1	1	3	4			
作業療法総合臨床実習Ⅱ【臨】	4前	7				1	1	3	4			
作業療法地域実習【臨】	4前	1				1	1	3	4			
小計(66科目)	-	-	86	0	0	5	1	3	4	12		
展開科目	マーケティング論	2後	1							1		
	施設起業運営論	3前	1							1		
	ボランティア論	1前	1							1		
	子育て支援論	2前	1			1						
	災害支援論	1後	1								1	
	教育支援論	2後	1							2		
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1							1		
	障がい者スポーツ論	3後	1							1		
	障がい者スポーツ論実習【※】	4前	1			1				2		
	地域社会共生論	1前	2							1		
	地域社会共生論実習【※】	1後	1							1		
	精神障がい者就労環境論	3後	2							1		
	身体障がい者就労環境論	3後	2							1		
	就労環境論実習【※】	4前	1							1		
	老年期地域生活適応論	3後		2						1		
	老年期地域生活適応論実習【※】	4前		1						1		
	成人期地域生活適応論	3後		2						1		
	成人期地域生活適応論実習【※】	4前		1						1		
	児童期地域生活適応論	3後		2						1		
	児童期地域生活適応論実習【※】	4前		1						1		
小計(20科目)	-	-	17	9	0	1	1			16		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1				2
	作業療法総合実習Ⅰ【※】	4後	1				1	1	3			
	作業療法総合実習Ⅱ【※】	4後	1				1	1	3			
	小計(3科目)	-	4	0	0		1	3	4			
合計(111科目)			-	118	11	0	7	2	3	4	42	
卒業要件及び履修方法												
<p>【卒業要件】</p> <p>次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。</p> <p>1.基礎科目20単位以上</p> <p>(1)必修科目11単位</p> <p>(2)選択科目9単位以上</p> <p>・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。</p> <p>2.職業専門科目86単位</p> <p>(1)必修科目86単位</p> <p>3.展開科目20単位</p> <p>(1)必修科目17単位</p> <p>(2)選択科目3単位</p> <p>4.総合科目4単位</p> <p>(1)必修科目4単位</p>												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1				2
	作業療法総合実習Ⅰ【※】	4後	1				1	1	3			
	作業療法総合実習Ⅱ【※】	4後	1				1	1	3			
	小計(3科目)	-	4	0	0		1	3	4			
合計(111科目)			-	118	11	0	7	2	3	4	42	
卒業要件及び履修方法												
<p>【卒業要件】</p> <p>次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。</p> <p>1.基礎科目20単位以上</p> <p>(1)必修科目11単位</p> <p>(2)選択科目9単位以上</p> <p>・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。</p> <p>2.職業専門科目86単位</p> <p>(1)必修科目86単位</p> <p>3.展開科目20単位</p> <p>(1)必修科目17単位</p> <p>(2)選択科目3単位</p> <p>4.総合科目4単位</p> <p>(1)必修科目4単位</p>												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	1					1				
	コミュニケーション論	1前	1									1
	音楽	1後		1								1
	キャリア発達論	2後	1									1
	教育学	1前	1									1
	倫理学入門	1前	1									1
	哲学入門	1前		1								1
	心理学	1後	1									1
	経営学入門	2前		1								1
	社会学	1前	1									1
	日本の伝統文化	1前		1								1
	日本の近代史	1前		1								1
	体育	1後		1								1
	生物学	1前	1									1
	物理学Ⅰ	1前	1			1						
	物理学Ⅱ	1後		1		1						
	統計学	2後	1			1						
	数学	1前		1		1						
	英語Ⅰ	1前	1				1					
	英語Ⅱ	1後		1			1					
	韓国語	2後		1								1
	中国語	2後		1								1
小計(22科目)	-	-	11	11	0	1	1	1				14
職業専門科目	解剖学Ⅰ	1前	2			1						
	解剖学Ⅱ	1後	2			1						
	解剖学Ⅲ	1後	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	2			1						
	生理学Ⅱ	1後	2			1						
	運動学Ⅰ	1前	1					1				
	運動学Ⅱ	1後	1					1				
	運動学実習【※】	2前	1					1				
	人間発達学	1後	1									1
	救急援助論	2後	1									1
	内科学Ⅰ	2前	1									1
	内科学Ⅱ	2後	1									1
	神経内科学Ⅰ	2前	1									1
	神経内科学Ⅱ	2後	1									1
	整形外科Ⅰ	2前	1									1
	整形外科Ⅱ	2後	1									1
	精神医学	2前	1									1
	小児科学	2前	1									1
老年医学	2前	1									1	
薬理学概論	1後	1			1							
予防医学	3前	1									3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	画像診断学	2前	1									1
	栄養学	2前	1									1
	社会福祉学	2後	1									1
	地域包括ケア論	2後	1							1		
	リハビリテーション概論	1前	1				1					
	作業療法学総論	1前	1				1					
	基礎作業学	1前	1							1		
	基礎作業学実習Ⅰ【※】	1前	1						1			
	基礎作業学実習Ⅱ【※】	1後	1							1		
	作業療法研究法	3前	1			1						
	作業療法管理・制度論	1後	1				1					
	作業療法と倫理	1後	1				1					
	作業療法評価学総論	1後	1						1			
	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ【※】	2前	1						1			
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ【※】	2前	1						1			
	精神障害作業療法評価学実習【※】	2前	1							1		
	発達障害作業療法評価学実習【※】	2前	1				1					
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1						1			
	運動器疾患作業療法学実習【※】	2後	1						1			
	中枢神経疾患作業療法学実習【※】	2後	1							1		
	高次脳機能障害作業療法学実習【※】	3前	1							1		
	精神障害作業療法学	2後	1							1		
	精神障害作業療法学実習【※】	3前	1							1		
	発達障害作業療法学実習Ⅰ【※】	2後	1			1						
	発達障害作業療法学実習Ⅱ【※】	3前	1			1						
	老年期障害作業療法学	2後	1									1
	老年期障害作業療法学実習【※】	3前	1						1			
	日常生活活動論実習【※】	2前	1							1		
	社会生活行為論実習【※】	2前	1							1		
	作業分析活用論	2後	1				1					
	作業分析活用論実習【※】	2後	1							1		
	家族援助論	3前	1				1					
	住環境支援論	3前	1							1		
	作業療法義肢装具実習【※】	2後	1						1			
	生活行為向上マネジメント論実習【※】	3前	1							1		
	地域生活作業療法学総論	2前	1				1					
	地域生活作業療法学実習Ⅰ【※】	2後	1							1		
	地域生活作業療法学実習Ⅱ【※】	2後	1							1		
	地域生活作業療法学実習Ⅲ【※】	3前	1							1		
	作業療法見学実習Ⅰ【臨】	1後	1						3	4		
	作業療法見学実習Ⅱ【臨】	2前	1						3	4		
	作業療法評価実習【臨】	3前	5				1	1	3	4		
	作業療法総合臨床実習Ⅰ【臨】	3後	7				1	1	3	4		
	作業療法総合臨床実習Ⅱ【臨】	4前	7				1	1	3	4		
	作業療法地域実習【臨】	4前	1				1	1	3	4		
	小計(66科目)	-	86	0	0	5	1	3	4	12		
展開科目	マーケティング論	2後	1								1	
	施設起業運営論	3前	1								1	
	ボランティア論	1前	1								1	
	子育て支援論	2前	1			1						
	災害支援論	1後	1								1	
	教育支援論	2後	1								2	
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1								1	
	障がい者スポーツ論	3後	1								1	
	障がい者スポーツ論実習【※】	4前	1			1					2	
	地域社会共生論	1前	2								1	
	地域社会共生論実習【※】	1後	1								1	
	精神障がい者就労環境論	3後	2								1	
	身体障がい者就労環境論	3後	2								1	
	就労環境論実習【※】	4前	1								1	
	老年期地域生活適応論	3後	2								1	
	老年期地域生活適応論実習【※】	4前	1								1	
成人期地域生活適応論	3後	2								1		
成人期地域生活適応論実習【※】	4前	1								1		
児童期地域生活適応論	3後	2								1		
児童期地域生活適応論実習【※】	4前	1								1		
小計(20科目)	-	17	9	0	1	1				16		
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1				2
	作業療法総合実習Ⅰ【※】	4後	1				1	1	3			
	作業療法総合実習Ⅱ【※】	4後	1				1	1	3			
	小計(3科目)	-	4	0	0		1	3	4			
合計(111科目)	-	118	11	0	7	2	3	4	42			

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。

1.基礎科目20単位以上

(1)必修科目11単位

(2)選択科目9単位以上

・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。

2.職業専門科目86単位

(1)必修科目86単位

3.展開科目20単位

(1)必修科目17単位

(2)選択科目3単位

4.総合科目4単位

(1)必修科目4単位

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

設置認可時に未確定だった教員が、令和元年12月のAO教員審査により決定したことにより、以下の4科目の専任教員配置が変更。
 「地域包括ケア論」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
 「住環境支援論」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
 「地域生活作業療法学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
 「地域生活作業療法学実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。

【令和3年度】

特になし

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
94 科目	17 科目	0 科目	111 科目	94 科目 [0]	17 科目 [0]	0 科目 [0]	111 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{111} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	その他は駐車場。運動場用地は近隣の総合スポーツ施設（おくの運動公園）を賃借（スクールバスで10分。4.4km） 校地等の共用については、共用していた滋賀医療技術専門学校が閉校（R3.3）したことに伴いすべて専用に変更。		
	校舎敷地	13,632.29㎡	0㎡	13,632.29㎡	0.00㎡		13,632.29㎡	
	運動場用地	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡		0.00㎡	
	小 計	13,632.29㎡	0㎡	13,632.29㎡	0.00㎡		13,632.29㎡	
	そ の 他	4,007.00㎡	0㎡	4,007.00㎡	0.00㎡		4,007.00㎡	
	合 計	17,639.29㎡	0㎡	17,639.29㎡	0.00㎡		17,639.29㎡	
(2) 校 舎	専 用	6,102.41㎡	0.00㎡	0.00㎡	6,102.41㎡			
	(3,224.59㎡)	(2,877.82㎡)	(0.00㎡)	(6,102.41㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	10室	1室	12室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	リハビリテーション学部 理学療法学科			30 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標 本	購入予定の図書が一部絶版となり入手できなかったため8冊減。機械・器具については開設前年度に購入したものを加算した（2） 図書、視聴覚資料及び機器の寄贈・経常経費での購入があったため、当初計画より増加された（3）	
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕					電子ジャーナル
	冊	種	〔うち外国書〕					
	リハビリテーション学部	48〔7〕	3〔0〕	236 206 (236) (206) (206)	2,394 2,195 (2,369) (2,098) (2,098)	46 (46) (46) (28) (28)		
計	48〔7〕	3〔0〕	236 206 (236) (206)	2,394 2,195 (2,369) (2,098)	46 (46) (46) (28)			
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	311.66㎡	82	25,000					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				体育館は近隣のおくの運動公園を賃借		
	0.00㎡	該 当 な し						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	253千円	253千円	図書購入費	- 千円	1,000千円	1,000千円
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	- 千円	1,500千円	1,500千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,600千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		びわこリハビリテーション専門職大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
リハビリテーション学部	4年	120人	3年次人	240人		1.05倍	0.76倍		令和2年度	滋賀県東近江市北坂町967	
理学療法学科	4	80	-	160	理学療法士(専門職)	1.11	0.83	-	令和2	同上	
作業療法学科	4	40	-	80	作業療法士(専門職)	0.92	0.63	-	令和2	同上	
大学全体	-	120	-	240	-	-	-	-	-	-	
大学の名称		藍野大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
医療保健学部	4年	295人	3年次2人	1,090人		1.08倍	1.14倍	令和2	平成16年	-	
看護学科	4	115	2	410	学士(看護学)	1.04	1.11	令和2	平成16年	大阪府茨木市東太田4-5-4	定員変更(25)
理学療法学科	4	100	-	360	学士(理学療法)	1.14	1.20	令和2	平成16年	同上	定員変更(20)
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.07	0.92		平成16年	同上	
臨床工学科	4	40	-	160	学士(臨床工学)	1.09	1.35		平成22年	同上	
大学全体	-	295	2	-	-	-	-	-	-	-	
大学院看護学研究科	2	6	-	12	修士(看護学)	0.91	0.66	-	平成27		
大学の名称		藍野大学短期大学部					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の)	開設年度	所在地	
第一看護学科	2年	100人	-	200人	短期大学士(看護学)	0.92倍	1.40倍	-	昭和60年	大阪府茨木市太田3-9-25	
第二看護学科	3	80	-	240	短期大学士(看護学)	1.19	1.25	-	平成19年	大阪府富田林市青葉丘11-1	
大学全体	-	180	-	440	-	-	-	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション学部 作業療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	野田 亨 (67) <令和2年4月> 医学博士	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ	野田 亨 (67) <令和2年4月> 医学博士	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ	野田 亨 (68) <令和2年4月> 医学博士			
専	教授	三谷 章 (65) <令和2年4月> 医学博士	生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	三谷 章 (65) <令和2年4月> 医学博士	生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	三谷 章 (66) <令和2年4月> 医学博士			
専	教授	外池 光雄 (75) <令和2年4月> 工学博士	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 統計学 数学	外池 光雄 (75) <令和2年4月> 工学博士	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 統計学 数学	外池 光雄 (76) <令和2年4月> 工学博士			
専	教授	田中 弘一郎 (66) <令和2年4月> 理学博士	薬理学概論	田中 弘一郎 (66) <令和2年4月> 理学博士	薬理学概論	田中 弘一郎 (67) <令和2年4月> 理学博士			
専	教授	辛島 千恵子 (64) <令和3年4月> 博士(保健学)	作業療法研究法 発達障害作業療法学実習Ⅰ 発達障害作業療法学実習Ⅱ 作業分析活用論 家族援助論 地域生活作業療法学総論 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習	辛島 千恵子 (63) <令和3年4月> 博士(保健学)	作業療法研究法 発達障害作業療法学実習Ⅰ 発達障害作業療法学実習Ⅱ 作業分析活用論 家族援助論 地域生活作業療法学総論 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習	辛島 千恵子 (64) <令和3年4月> 博士(保健学)			
専	教授	井出 千東 (78) <令和2年4月> 医学博士	解剖学Ⅱ	井出 千東 (78) <令和2年4月> 医学博士	解剖学Ⅱ	井出 千東 (79) <令和2年4月> 医学博士			
専	教授	埜田 和史 (65) <令和2年4月> 医学博士	身体障がい者就労環境論	埜田 和史 (65) <令和2年4月> 医学博士	身体障がい者就労環境論	埜田 和史 (66) <令和2年4月> 医学博士			
専	准教授	鈴木 規己洋 (62) <令和2年4月> 修士(教育学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ	鈴木 規己洋 (62) <令和2年4月> 修士(教育学)	英語Ⅰ 英語Ⅱ	鈴木 規己洋 (64) <令和2年4月> 修士(教育学)			
専	講師	辻村 肇 (46) <令和2年4月> 博士(工学)	基礎作業学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅱ	辻村 肇 (49) <令和2年4月> 博士(工学)	基礎作業学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅱ	辻村 肇 (50) <令和2年4月> 博士(工学)			
専	講師	園田 悠馬 (36) <令和2年4月> 博士(保健学)	作業療法評価学総論 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ 身体障害作業療法基礎技術論 老年障害作業療法実習 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 協働連携総合実習	園田 悠馬 (36) <令和2年4月> 博士(保健学)	作業療法評価学総論 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ 身体障害作業療法基礎技術論 老年障害作業療法実習 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 協働連携総合実習	園田 悠馬 (39) <令和2年4月> 博士(保健学)			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
実専	助教	木岡 和実 (50) <令和3年4月> 学士(教養)	実専	助教	木岡 和実 (49) <令和3年4月> 学士(教養)	実専	助教	木岡 和実 (50) <令和3年4月> 学士(教養)			
		作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			
実専	助教	杉本 久美子 (38) <令和2年4月> 専門士	実専	助教	杉本 久美子 (38) <令和2年4月> 専門士	実専	助教	杉本 久美子 (39) <令和2年4月> 専門士			
		作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			
実専	助教	河津 拓 (39) <令和2年4月> 修士(作業療法学)	実専	助教	河津 拓 (40) <令和2年4月> 修士(作業療法学)	実専	助教	河津 拓 (41) <令和2年4月> 修士(作業療法学)			
		基礎作業学実習Ⅱ 中枢神経疾患作業療法実習 高次脳機能障害作業療法実習 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 生活行為向上マネジメント論実習			基礎作業学実習Ⅱ 中枢神経疾患作業療法実習 高次脳機能障害作業療法実習 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 生活行為向上マネジメント論実習			基礎作業学実習Ⅱ 中枢神経疾患作業療法実習 高次脳機能障害作業療法実習 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 生活行為向上マネジメント論実習			
		作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅱ			地域包括ケア論 基礎作業学実習Ⅱ 中枢神経疾患作業療法実習 高次脳機能障害作業療法実習 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 生活行為向上マネジメント論実習 地域生活作業療法実習Ⅲ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅱ			地域包括ケア論 基礎作業学実習Ⅱ 中枢神経疾患作業療法実習 高次脳機能障害作業療法実習 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 生活行為向上マネジメント論実習 地域生活作業療法実習Ⅲ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅱ			
実(研)	准教授	大西 満 (52) <令和2年4月> 修士(保健学)	実(研)	准教授	大西 満 (52) <令和2年4月> 修士(保健学)	実(研)	准教授	大西 満 (53) <令和2年4月> 修士(保健学)			
		リハビリテーション概論 作業療法学総論 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 発達障害作業療法評価実習 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 子育て支援論 障がい者スポーツ論実習 協働連携総合実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			リハビリテーション概論 作業療法学総論 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 発達障害作業療法評価実習 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 子育て支援論 障がい者スポーツ論実習 協働連携総合実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			リハビリテーション概論 作業療法学総論 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 発達障害作業療法評価実習 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 子育て支援論 障がい者スポーツ論実習 協働連携総合実習 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ			
実(研)	講師	安部 征哉 (48) <令和2年4月> 修士(学術)	実(研)	講師	安部 征哉 (48) <令和2年4月> 修士(学術)	実(研)	講師	安部 征哉 (49) <令和2年4月> 修士(学術)			
		学びの基盤 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 身体障害作業療法評価実習Ⅰ 運動器疾患作業療法実習 作業療法器械器具実習 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ			学びの基盤 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 身体障害作業療法評価実習Ⅰ 運動器疾患作業療法実習 作業療法器械器具実習 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ			学びの基盤 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 身体障害作業療法評価実習Ⅰ 運動器疾患作業療法実習 作業療法器械器具実習 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ			
実(研)	助教	嶋川 昌典 (47) <令和2年4月> 修士(人間文化学)	実(研)	助教	嶋川 昌典 (47) <令和2年4月> 修士(人間文化学)	実(研)	助教	嶋川 昌典 (48) <令和2年4月> 修士(人間文化学)			
		基礎作業学 精神障害作業療法評価実習 精神障害作業療法 精神障害作業療法実習 作業分析活用論実習 地域生活作業療法実習Ⅱ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ			基礎作業学 精神障害作業療法評価実習 精神障害作業療法 精神障害作業療法実習 作業分析活用論実習 地域生活作業療法実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ			基礎作業学 精神障害作業療法評価実習 精神障害作業療法 精神障害作業療法実習 作業分析活用論実習 地域生活作業療法実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ			
兼任	教授・学長	山川 正信 (70) <令和2年4月> 医学博士	兼任	教授	山川 正信 (70) <令和2年4月> 医学博士	兼任	教授	山川 正信 (71) <令和2年4月> 医学博士			
		予防医学			予防医学			予防医学			
兼任	准教授	分木 ひとみ (62) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	分木 ひとみ (62) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	分木 ひとみ (63) <令和4年4月> 博士(学術)			
		予防医学 協働連携総合実習			予防医学 協働連携総合実習			予防医学 協働連携総合実習			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	金沢 伸彦 (65) <令和3年4月> 医学博士	兼任	教授	金沢 伸彦 (65) <令和3年4月> 医学博士	兼任	教授	金沢 伸彦 (66) <令和3年4月> 医学博士			
		整形外科学Ⅰ 整形外科学Ⅱ			整形外科学Ⅰ 整形外科学Ⅱ			整形外科学Ⅰ 整形外科学Ⅱ			
兼任	教授	篠田 恵一 (68) <令和3年4月> 医学博士	兼任	教授	篠田 恵一 (67) <令和3年4月> 医学博士	兼任	教授	篠田 恵一 (68) <令和3年4月> 医学博士			
		内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 救急援助論			内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 救急援助論			内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 救急援助論			
兼任	教授	中野 法彦 (51) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	教授	中野 法彦 (51) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	教授	中野 法彦 (52) <令和2年4月> 博士(医学)			
		生物学			生物学			生物学			
兼任	講師	堀 寛史 (42) <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	講師	堀 寛史 (42) <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	講師	堀 寛史 (44) <令和2年4月> 博士(学術)			
		哲学入門			哲学入門			哲学入門			
兼任	准教授	安田 考志 (49) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)	兼任	准教授	安田 考志 (46) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)	兼任	准教授	安田 考志 (47) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)			
		障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習			障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習			障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習			
兼任	准教授	兼清 健志 (41) <令和3年4月> 博士(薬学)	兼任	准教授	兼清 健志 (41) <令和3年4月> 博士(薬学)	兼任	准教授	兼清 健志 (42) <令和3年4月> 博士(薬学)			
		栄養学			栄養学			栄養学			
兼任	助教	佐藤 隆彦 (35) <令和2年4月> 博士(スポーツ科学)	兼任	助教	佐藤 隆彦 (35) <令和2年4月> 博士(スポーツ科学)	兼任	助教	佐藤 隆彦 (36) <令和2年4月> 博士(スポーツ科学)			
		体育			体育			体育			
兼任	講師	池谷 雅江 (51) <令和5年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	講師	池谷 雅江 (48) <令和5年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	講師	池谷 雅江 (49) <令和5年4月> 修士(社会福祉学)			
		障がい者スポーツ論実習 協働連携論総合実習			障がい者スポーツ論実習 協働連携論総合実習			障がい者スポーツ論実習 協働連携論総合実習			
兼任	講師	鈴木 美香 (41) <令和4年4月> 修士(学術)	兼任	講師	鈴木 美香 (39) <令和4年4月> 修士(学術)	兼任	講師	鈴木 美香 (40) <令和4年4月> 修士(学術)			
		予防医学			予防医学			予防医学			
兼任	講師	木岡 和実 (49) <令和2年4月> 学士(教養)	兼任	講師	木岡 和実 (49) <令和2年4月> 学士(教養)	兼任	講師	木岡 和実 (49) <令和2年4月> 学士(教養)			
		作業療法見学実習Ⅰ			作業療法見学実習Ⅰ			作業療法見学実習Ⅰ			
兼任	講師	飯田 英晴 (66) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	飯田 英晴 (66) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	飯田 英晴 (69) <令和2年4月> 博士(医学)			
		コミュニケーション論 心理学			コミュニケーション論 心理学			コミュニケーション論 心理学			
兼任	講師	柿本 理津子 (61) <令和2年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	柿本 理津子 (61) <令和2年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	柿本 理津子 (62) <令和2年4月> 修士(音楽)			
		音楽			音楽			音楽			
兼任	講師	李 艶 (56) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	李 艶 (56) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	李 艶 (57) <令和3年4月> 博士(心理学)			
		キャリア発達論			キャリア発達論			キャリア発達論			
兼任	講師	杉浦 由香里 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	杉浦 由香里 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	杉浦 由香里 (38) <令和2年4月> 博士(教育学)			
		教育学			教育学			教育学			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	山城 尊靖 (47) <令和3年4月> 学士(保健衛生学)	兼任	講師	山城 尊靖 (46) <令和3年4月> 学士(保健衛生学)						
		画像診断学			画像診断学						
兼任	講師	宇野 恵美子 (67) <令和3年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	宇野 恵美子 (67) <令和3年4月> 修士(看護学)						
		老年期障害作業療法学			老年期障害作業療法学						
兼任	講師	永田 かおり (48) <令和4年4月> 専門学校卒	兼任	講師	永田 かおり (48) <令和4年4月> 専門学校卒						
		施設起業運営論			施設起業運営論						
兼任	講師	武富 純子 (53) <令和2年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	武富 純子 (53) <令和2年4月> 修士(社会学)						
		ボランティア論			ボランティア論						
兼任	講師	角野 文彦 (64) <令和2年4月> 医学士	兼任	講師	角野 文彦 (64) <令和2年4月> 医学士						
		災害支援論			災害支援論						
兼任	講師	黒田 吉孝 (71) <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	黒田 吉孝 (71) <令和3年4月> 博士(教育学)						
		教育支援論			教育支援論						
兼任	講師	後藤 真吾 (66) <令和3年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	後藤 真吾 (66) <令和3年4月> 学士(社会学)						
		教育支援論			教育支援論						
兼任	講師	首藤 賢 (49) <令和3年4月> 修士(文学)	兼任	講師	首藤 賢 (48) <令和3年4月> 修士(文学)						
		メンタルヘルスマネジメント論			メンタルヘルスマネジメント論						
兼任	講師	田村 和宏 (57) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	講師	田村 和宏 (57) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)						
		地域社会共生論			地域社会共生論						
兼任	講師	山本 英嗣 (52) <令和2年4月> 専修学校卒	兼任	講師	山本 英嗣 (52) <令和2年4月> 専修学校卒						
		地域社会共生論実習			地域社会共生論実習						
兼任	講師	城 貴志 (45) <令和4年4月> 学士(社会福祉学)	兼任	講師	城 貴志 (43) <令和4年4月> 学士(社会福祉学)						
		精神障がい者就労環境論 就労環境論実習			精神障がい者就労環境論 就労環境論実習						
兼任	講師	坂梨 任勇 (45) <令和4年4月> 専修学校卒	兼任	講師	坂梨 任勇 (44) <令和4年4月> 専修学校卒						
		老年期地域生活適応論 老年期地域生活適応論実習			老年期地域生活適応論 老年期地域生活適応論実習						
兼任	講師	笹井 久嗣 (45) <令和4年4月> 準学士(保育)	兼任	講師	笹井 久嗣 (43) <令和4年4月> 準学士(保育)						
		成人期地域生活適応論 成人期地域生活適応論実習			成人期地域生活適応論 成人期地域生活適応論実習						
兼任	講師	重見 将治 (49) <令和4年4月> 専門学校卒	兼任	講師	重見 将治 (47) <令和4年4月> 専門学校卒						
		児童期地域生活適応論 児童期地域生活適応論実習			児童期地域生活適応論 児童期地域生活適応論実習						

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

科目不適合により、科目担当者が未定となっていた4科目について、担当教員が決定。令和元年12月教員審査済。

【科目の追加】

助教 河津拓「地域包括ケア論」、「住環境支援論」、「地域生活作業療法学実習Ⅲ」を追加。

助教 嶋川昌典「地域生活作業療法学実習Ⅰ」を追加。

【令和3年度】

【担当教員の変更】

兼任教員 小沢 道紀の就任辞退により「経営学入門」及び「マーケティング論」の担当教員を兼任教員 禿 慧二に変更。

【兼任教員が専任教員として着任したことに伴う変更(設置計画時の予定通り)】

兼任であった木岡和実が実専の助教として着任。

【令和4年度】

【令和5年度】

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
10 名	5 名	5 名	3 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況											
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')						
7	2	3	4	16	4	7	2	3	4	16	3						
(6)	(2)	(3)	(3)	(14)	(0)												
専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))			専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))		
10			3			3			10			3			3		
(9)			(2)			(3)			(9)			(2)			(3)		
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画											
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')						
7	2	3	4	16	4	7	2	3	4	16	4						
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]						
専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))			専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))		
10			3			3			10			3			3		
[0]			[0]			[0]			[0]			[0]			[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	4 名	8 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{4}{16} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{4} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1										
2										
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{16} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和元年)	カリキュラム・ポリシーに定めた「倫理観に基づき生命を尊重する態度」及び「理学療法士又は作業療法士に必要なコミュニケーション能力」の涵養について、臨地実務実習における具体的な教育内容及び評価基準をシラバスに明示するとともに、学生に対して周知すること。	遵守事項 臨地実務実習の教育内容及び評価基準についてシラバスに記載し、学生への周知を行った。	履行済
認可時 (令和元年)	「職業資格や技能検定に基づいて、展開科目の中で、読み替えに該当する授業科目がある場合」における展開科目の既修得単位の認定について、入学者が有していることが想定される職業資格や技能検定に係る主な認定科目とその基準を予め明らかにすること。また、「英語Ⅰ・Ⅱ」の既修得単位の認定について、英語検定、TOEIC及びTOEFLの点数に応じて認定することだが、その認定基準を予め明確にすること。	遵守事項 基準については、次のように明確にし、学生便覧に記載し、オリエンテーション等で学生に周知している。 「中級障がい者スポーツ指導員資格」→「障がい者スポーツ論」「障がい者スポーツ論実習」の単位認定 「メンタルヘルスマネジメント検定2級」→「メンタルヘルスマネジメント論」 「スポーツリズムトレーニング」→「スポーツリズムトレーニング論」の単位認定 「ゴルフフィジオトレーナー」→「ゴルフトレーニング論」の単位認定 「英語Ⅰ」→「英語検定2級」、「TOEIC 500点以上」で単位認定 「英語Ⅰ及び英語Ⅱ」→「英語検定準1級」、「TOEIC 551以上」で単位認定	履行済

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画	
認 可 時 (令和元年)	社会人推薦入試について、学部及び学科それぞれのアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を確実に担保するよう適切に実施すること。また、一般学生並びに社会人学生の双方の教育に支障を来すことがないように、適切な履修指導体制を整備すること。	遵守事項 令和3年度の社会人入試では、志望理由書20%、個人面接40%、小論文40%で判定を行った。本学科志望理由書を踏まえた個人面接を実施し、アドミッション・ポリシーにある、社会貢献への意欲、対人協調性、問題解決意欲、論理的思考力と柔軟な発想力の潜在性を可能な限り測定している。また、小論文においては、自身の考えを論述するもので、適切な日本語能力、現代社会に関する知識とともに医療人として社会貢献しようという意欲や論理的な思考力など、本学のアドミッション・ポリシーの中核的な資質を見るものである。残念ながら令和3年度は志願者がいなかったが、次年度に向けて継続して行う。また、開学当時から継続している学年担当、クラス担任制をとることで、一般学生、社会人学生双方に対して、教育に支障が出ないような体制を整備している。さらに令和3年度からは、学生への支援体制として、新たに学習支援センターを設置し、社会人学生だけでなく、学習に不安を抱える学生のフォローを行う体制を整えた。	履行済	
認 可 時 (令和元年)	指定校推薦入試及び公募制推薦入試について、例えばGPA平均値など、推薦基準を明らかにすること。	遵守事項 高等学校長あてに送付している指定校推薦入試の通知に記載している内容の例は以下の通りである。 ①推薦枠 リハビリテーション学部 理学療法学科対象1名 ②推薦基準 以下の要件をすべて満たしている者 (1) 2020年3月に高等学校卒業見込みの者 (2) 学業成績・人物とも優れ、心身ともに健康で、志願する学科について、出身学校 長が責任を持って推薦できる者 (3) 本学に合格した場合、必ず入学する者（専願であること） (4) 評定平均値 理学療法学科：3.5以上 評定平均値については、各高等学校の進学実績やこれまでの滋賀医療技術専門学校での入学実績等を動案して、令和2年度においては3.0から4.0まで個別に割り振っている。なお、1で回答したように、令和3年度の指定校推薦入試においてはこの基準を緩和し、本学が求める基礎学力が担保できる推薦基準となるよう修正している。	履行済	
認 可 時 (令和元年)	「英語Ⅱ」のシラバスにおける到達目標について、英語検定、TOEIC及びTOEFL等の外部検定における到達度を例示するなど、授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力をより具体的に明示すること。	遵守事項 以下の通りシラバスに記載済み。 「TOEIC450点が取れるレベルに到達することを目標とする。」	履行済	
認 可 時 (令和元年)	1単位科目の単位設定の考え方について、科目ごとの予習・復習内容を含めて、学生が1単位15時間の授業科目と1単位30時間の授業科目の違いを理解しやすいようシラバスに明示すること。	遵守事項 単位設定の考え方をまとめた資料を作成し、シラバスとともに配布している。	履行済	

区分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の実施計画	
認可時 (令和元年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	設置の趣旨に示したように、地域社会との連携の強化を進めている。具体的には、本学の所在地である東近江市、隣接町である日野町、職能団体である滋賀県理学療法士会などと協定を締結し、教育や地域社会への貢献に努めている。教育に関しては、設置計画に基づき、機器備品、教育環境の整備を進めている。教育研究活動については、FD・SD推進委員会を中心に教育能力向上のための取り組みを開始した。その結果、令和3年度には4名が新規に採択され、6名が継続して研究を続けている。	履行中	設置計画を着実に履行していく。教育研究活動に関しては、学内でのFD・SD活動及び学外の学術団体や医療機関での研修等の参加を促進し、教員個々の能力の向上に努める。
認可時 (令和元年)	教育・研究に要する図書等について、「経年的に整備する」こととしているが、具体的な整備計画を明らかにすること。	R1年度に図書333冊、電子書籍115冊、R2年度には233冊、R3年には175冊を設置経費にて購入する計画となっている。それ以外に完成年度までの図書等の購入費として年間100万円の経常経費を確保しており、展開科目等に係る図書を約200冊、研究や専門分野に関する図書を約150冊を購入する予定である。この他にも2021年には1000冊程度の図書の寄贈を受ける予定となっている。	履行済	
認可時 (令和元年)	教員の補充が必要とされた4授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	令和元年12月のAC教員審査において適合の判定を受け、充足済み。	履行済	
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	教育内容の充実等を通じて、入学定員未充足の改善に努めること。 (リハビリテーション学部作業療法学科)	令和3年度の新入生は、37名であり、入学定員充足には至らなかったが、入学定員充足率は92.5%まで改善した。	履行中	高校訪問、オープンキャンパス等の広報活動を通じて、入学定員充足へ向けて取り組む。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合は、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<リハビリテーション学部 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 授業形態の変更	① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響があり、一部の科目でオンライン授業を行っている。 これは周辺府県の緊急事態宣言の発令に伴う措置であり、緊急事態宣言が解除されれば対面授業に戻す予定である。 しかし、理学療法見学実習Ⅰについては、実習先の受入が困難であるため、学内実習に変更する。
② 学則の変更	② 学則にメディアを利用して行う授業の条文の追加、成績評価の方法のGPAにS評価を追加した。 また、学費については入学金を15万円減額し、2年次以降の実験実習費を5万増額した。 いずれの学則変更も事前に専門教育課に事前に相談をした上での変更である。
③ 実習施設の追加	③ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実習施設から一時的に受け入れを停止する連絡等もあったため、受け入れ可能な新規実習施設の追加申請を行った。
④ シラバスの表記の修正	④ シラバスの内容をわかりやすくするために、表記の一部を修正した。事前に専門教育課に相談済である。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 FD・SD推進委員会が設置されている。規程を以下に転載する。</p> <p>びわこリハビリテーション専門職大学FD・SD推進委員会規程 [2020年4月1日制定]</p> <p>(目的・設置)</p> <p>第1条 びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）の教育理念及び学部、学科の教育目標に基づき（任務）</p> <p>第2条 委員会は、各教員の教育力を高め教育の質の向上を図ること、また教職員を対象とする大学運営及び教育・学</p> <p>(1) FD・SDの基本方針に関する事項 (2) FD・SD研修プログラム等の企画・立案及び実施に関する事項 (3) 授業評価アンケート、その他授業の改善に関する事項 (4) FD・SDの啓発活動に関する事項 (5) その他FD・SD活動推進に関する事項</p> <p>(委員会の構成)</p> <p>第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。</p> <p>(1) 学部長 (2) 各学科より選出された教員 各1名 (3) 教務委員会委員長 (4) 事務センター長 (5) その他学部長が必要と認める者</p> <p>(委員長等)</p> <p>第4条 委員会には委員長を置き、学部長がこれを指名する。</p> <p>2 委員会は、必要に応じ、委員長が委員の中から指名する副委員長を置くことができる。</p> <p>3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に支障があるときはこれを代行する。</p> <p>(委員会の運営)</p> <p>第5条 委員会は、必要に応じて委員長の招集により開催する。</p> <p>2 委員会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。</p> <p>3 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。</p> <p>(所管)</p> <p>第7条 この委員会の事務の所管は、事務センター学生支援グループとする。</p> <p>(改廃)</p> <p>第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議の承認を必要とする。</p> <p>附 則 この規程は、2020年4月1日から施行する。</p>

- b 開催状況（教員の参加状況含む）
令和2年6月12日（金） 7名の構成員の内、6名出席（内4名が教員）
- c 委員会の審議事項等
 - （1）委員長を選任
 - （2）授業アンケートについて
 - （3）FD・SD研修会の実施について

② 実施状況

- a 実施内容
 - ・ 科研費獲得に向けた研修会（2020年9月24日）
科学研究費の申請・獲得に向けて
研究倫理及びコンプライアンスについて
 - ・ 自学自習を促すシラバス作成法（2020年10月27日）
- b 実施方法
講義形式で実施
- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・ 科研費獲得に向けた研修会（2020年9月24日）
科学研究費の申請・獲得に向けて
研究倫理及びコンプライアンスについて
教員の参加状況 31名出席（後日の動画視聴、APRIN等の受講も含む）
 - ・ 自学自習を促すシラバス作成法（2020年10月27日）
教員の参加状況 14名出席
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
学生が身につけるべき能力を主体としたシラバス表記に改めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

- a 実施の有無及び実施時期
前期後期のそれぞれの中間、終了時の4回に分けて実施
- b 教員や学生への公開状況、方法等
各科目の教員はLMS上で自身の担当科目のアンケート結果を閲覧することが出来る。
学生への公開については、現在方法等を含めて検討中である。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。) 設置済み。委員については、1名追加があったため、別途加筆した名簿を添付します。

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

令和2年度 第1回 令和3年3月11日

c 委員会の審議事項等

- ① 教育内容の特色説明及び今年度の教育活動報告及び次年度の教育活動目標
- ② 今後の本学と教育課程連携協議会の協力体制について

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・ 地域との連携による臨地実務実習の実習施設の確保に関する意見交換
- ・ 臨床実習施設から、現場での状況を踏まえた教育内容への提言。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・ 完成年度後の改正に向けて、教育課程改正ワーキンググループを設置し、協議会の意見を反映させる形での教育課程の検討を開始する予定である。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・ 現状のシラバスを変更しない範囲で、協議会の意見を取り入れていくように、該当科目の教員に情報を共有している。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一部の臨地実務実習が学内実習に変更することになったが、教育効果を落とさないように努めている。その結果として、退学者1名、休学者1名にとどめることができ、コロナ禍の中で一定の結果が出せたと考えている。

また、研究活動についてであるが、FDSD活動に取り組み、教員の資質向上を図ってきた。その結果、今年度科研費の新規採択は4件、継続課題は6件の計10件の研究が進められている。

地域貢献活動については、学校の所在地である東近江市、隣接する町、日野町、また、職能団体である滋賀県理学療法士会と協定を締結し、今後、共同で事業を行っていく予定である。

このように開学1年が経過した段階ではあるが、一定の結果は残せているものとする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

記入例)

- ・令和3年11月1日 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

- ・機関別認証評価、分野別認証評価ともに完成年度後に受審を予定している。

現時点では、機関別認証評価機関として、大学基準協会または高等教育評価機構のいずれかを考えている。

分野別認証評価については、今後認証評価機関が定まったのちに、対応を検討する。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和3年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2~3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した計画を記入ください。
- 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
- 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。
その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目) ・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目) <p>本学は、多様な人材確保のため、入学者選抜において、推薦入試の中に社会人推薦入試を用意しており、高等学校卒業見込の者又は既卒者以外に、学び直しの機会を求める社会人にも門戸を開いている。社会人推薦入試の出願資格には、「入学時において社会人経験としての実務経験を1年以上有する者」とし、その実務経験は、パートタイム、アルバイト等も実務経験に含むこととしている。また、入学者選抜においても、机上の学修から離れ、時間が経っていても、社会人としての経験を選考の判断材料の1つとして重視し、学び直したいという強い意志を持った者に機会が与えられるように配慮している。</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p>令和3年度入試でも社会人推薦入試を設定したが、受験者は0名であった。令和4年度以降の入学者選抜においても社会人推薦入試は実施する予定である。</p>

② 臨地実務実習

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先の確保の状況 <p>理学療法及び作業療法の対象は、子どもから成人、高齢者まで幅広い年齢層となり、その領域は医療分野から介護、福祉分野まで多岐にわたる。本学の臨地実務実習では、これら幅広い対象者への理学療法及び作業療法を経験させるため、滋賀県を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等、急性期から生活期までの様々な領域の実習施設を確保している。実習先の確保状況は、臨地実務実習受入承諾書のとおりであり、理学療法学科は107施設、作業療法学科は56施設からその承諾を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習水準の確保の方策 <p>実習水準が確保できるように次の取り組みを行っている。</p> <p>臨床実習指導者会議の開催 会議の内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 当該年度に実施した臨床実習の結果報告 ② 次年度の臨床実習の目的・目標・実習方法(診療参加型実習についての研修)・評価方法について ③ 実習指導者と学生の面談 ④ 学生指導で困ったこと、効果的な実習方法に関する意見交換など <p>実習に参加する学生もOSCEなどを経て、一定の水準に達していることを前提とし、実習の水準確保に努めている。</p>	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>実習施設の確保については、現時点で減少はなく、増加している。増加している理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に実習受入が困難という施設が出てきたことにより、受け入れ可能な実習施設の追加が必要となったためである。</p> <p>今年度実施する見学実習については、臨床実習指導者会議は行わないが、事前に教員と指導者との打ち合わせを行った上で実習を行うこととしている。 なお、評価実習からは臨床実習指導者会議を行う予定としている。</p>

びわこリハビリテーション専門職大学

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先との連携体制 <p>各実習施設に最低1名の専任教員（実習担当教員）を配置する。実習中は、各実習施設の担当となっている実習担当教員が、各学生の個性に即した実習指導が進行するようにサポートする。全ての実習において、実習開始後1週間程で再度電話連絡を行い、学生の実習がスムーズに進行していることの確認を行う。</p> <p>評価実習および総合臨床実習Ⅰ・Ⅱでは、実習期間中に必ず1回以上の巡回指導を行い、実習指導者との面談を行うことにより、実習の進捗状況や学生の問題点の把握、ならびにその他健康・生活上の様子を確認する。また、実習に問題が生じた場合は、必要に応じて再度巡回指導を行い、実習担当教員が実習施設側の要請に応じて協同して指導を行う。</p>	<p>現時点で実施されているのは見学実習のみであり、巡回指導等を行っていないが、事前打ち合わせ等を行うなど、実習施設と教員が連携を取りながら実習を進めている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の実習が学内実習に切り替わる可能性はあるが、可能な範囲で施設での実習ができるように、施設側との調整を行っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携実務演習等 	<p>記載なし</p>

③ その他

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置 <p>理学療法学科及び作業療法学科共に40人以下で授業を行うことを原則としている。</p>	<p>※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>理学療法学科の1年生のみ、1クラスが44名、45名の40名を超えて授業を行っている。40名を超えて授業を行うことで教育効果が低下しないように、AV機器の設置、LMSの導入など環境整備を進めると同時に、学生個々の学習状況等を把握し、問題が発生する前に対応できるようにクラス担任、学年担当制を採用し、定期的に行われる学科会議で学生に関する情報を共有し、学生指導に活かしている。</p> <p>さらに、定期試験後に不合格となった学生に対して再試験までの間に、オフィスアワー重点期間を設け、再試験に合格できるよう学生の指導に当たることとしている。令和3年度からは、学習支援センターを設置し、学生の学習支援を行う体制を整え、40名を超えて授業を行う場合であっても教育効果を落とさないように努めている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学前の実務経験を単位に換算した場合、その実施状況（換算の対象とした実務経験の内容と、換算した単位数、適切な換算が行われていることを説明すること。また換算の根拠となる規定等も添付すること） 	<p>該当なし</p>

びわこリハビリテーション専門職大学 教育課程連携協議会 協議員 一覧

専門職大学設置基準 第11条第2項

号数	区分	所属・氏名			
1	学長が指名する教員その他の職員	リハビリテーション学部長	理学療法学科長	作業療法学科長	学校法人藍野大学 副理事長 山本 嘉人 <small>※令和3年3月より追加</small>
2	当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの	滋賀県理学療法士会 会長 平岩 康之	滋賀県作業療法士会 会長 宮内 吉則	—	—
3	地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者	滋賀県健康医療福祉部 理事 角野 文彦	—	—	—
4	臨地実務実習(第29条第1項第4号に規定する臨地実務実習をいう。)その他の授業科目の開設又は授業の実施において当該専門職大学と協力する事業者	市立長浜病院 リハビリテーション技術科 主査 西村 圭二(PT)	マキノ病院 リハビリテーション科 科長 杉原 治(OT)	—	—
5	当該専門職大学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの	滋賀県医師会 会長 越智 眞一	東近江市地域包括支援センター センター長 河島 克彦	滋賀県(滋賀県立リハビリテーションセンター) 主査 乙川 亮	—